倉吉市文化財調査報告書　第87集

鳥取大学附属図書館
郷土資料室

倉吉市内遺跡分布調査報告書IX

平成8年度

倉吉市教育委員会

0.2
r

鳥取大学附属図書館
郷土資料室

序

この報告書は、平成７年度および８年度に、開発工事に伴う事前事業として実施した予備調査、そして、不入岡遺跡・大御堂廃寺・史跡大原廃寺で行った保存を前提とした範囲確認調査の記録であります。

鳥取県の中央部に位置する倉吉市は、豊かな自然と風土の中で育まれた、数多くの優れた文化財を今日に伝えています。

古代には、伯耆国庁や国分寺・国分尼寺が置かれ、伯耆国の政治・経済・文化の中心的役割を担っていました。これらは史跡として活用を図るため、３遺跡を一体化した環境整備事業を進めております。

また、旧市街地には、江戸時代からの商家を中心とした古い町並みがあり、平成８年10月に倉吉伝統的建造物群保存地区保存条例を制定しました。景観を保存して地域づくりに生かそうと努力しているところであります。

このように文化財保護を押し進める一方で、開発と文化財との共存を図るべく、各関係機関と協議を重ね、開発工事と文化財調査との調整を行っています。

今回、実施した調査でも多くの新たな発見を得ることになりました。発掘調査の成果をここに報告し、本書が、文化財愛護の理解普及、あるいは教育・研究の一資料としてご活用頂ければ幸いに存じます。

最後に、調査にご協力いただいた市民の方々をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表するものであります。

平成９年３月

倉吉市教育委員会
教育長　足　羽　一　昭

<10>0100572163

例　　言

1．本報告書は、平成７年度及び８年度に倉吉市教育委員会が、国・県の補助を受けて実施した分布調査の記録である。分布調査は、トレンチ・グリッドによって遺構の有無・範囲・性格を調査したものである。

2．発掘調査団は次のような組織・編成である。

団　　長	小川　幸人（倉吉市教育委員会教育長 平成７年９月まで）	
	足羽　一昭（倉吉市教育委員会教育長 平成７年10月より）	
調査委員	名越　　勉（倉吉市文化財保護審議会会長）	
	手嶋　義之（倉吉市文化財保護審議会委員）	
調　査　員	根鈴　輝雄（倉吉博物館学芸員）	眞田　廣幸（文化課課長補佐兼文化財係係長）
	森下　哲哉（文化財係主任）	根鈴智津子（文化財係主事）
	竹宮亜也子（文化財係主事　７年度）	加藤　誠司（文化財係主事）
	岡本　智則（文化財係主事）	岡平　拓也（文化財係主事　８年度）
調査補助員	山根　雅美・井上　達也・中村　圭吾	
事　務　局	福井　輝夫（教育次長　７年度）	石田佐喜子（教育次長　８年度）
	生田　淳美（文化課課長）	明里　英和（文化財係主任　７年度）
	高山　りさ（文化財係主事　７年度）	山崎慎之介（文化財係主事　８年度）
	福澤　昌子（文化財係主事　８年度）	山下　博子（臨時職員）
内務整理	泉　美智子・松田　恵子・世浪由美子・妻藤　君江・松嶋あつ子・青戸　千秋	
	竹歳　暁子・谷﨑　恵子・大前　俊文	

3．地形図は、平成元年修正測量の１：2,500 国土基本図　倉吉市平面図を使用し、方位は国土座標第Ⅴ座標系で示した。

4．発掘資料は倉吉博物館で保管している。

1．志津地区（横谷遺跡群）

調査地点　倉吉市志津字横谷（よこだに）、横谷峯（よこだにみね）、横谷平（よこだにびら）

調査期間　平成７年４月11日～平成７年５月10日

調査契機　ほ場整備事業に伴う予備調査

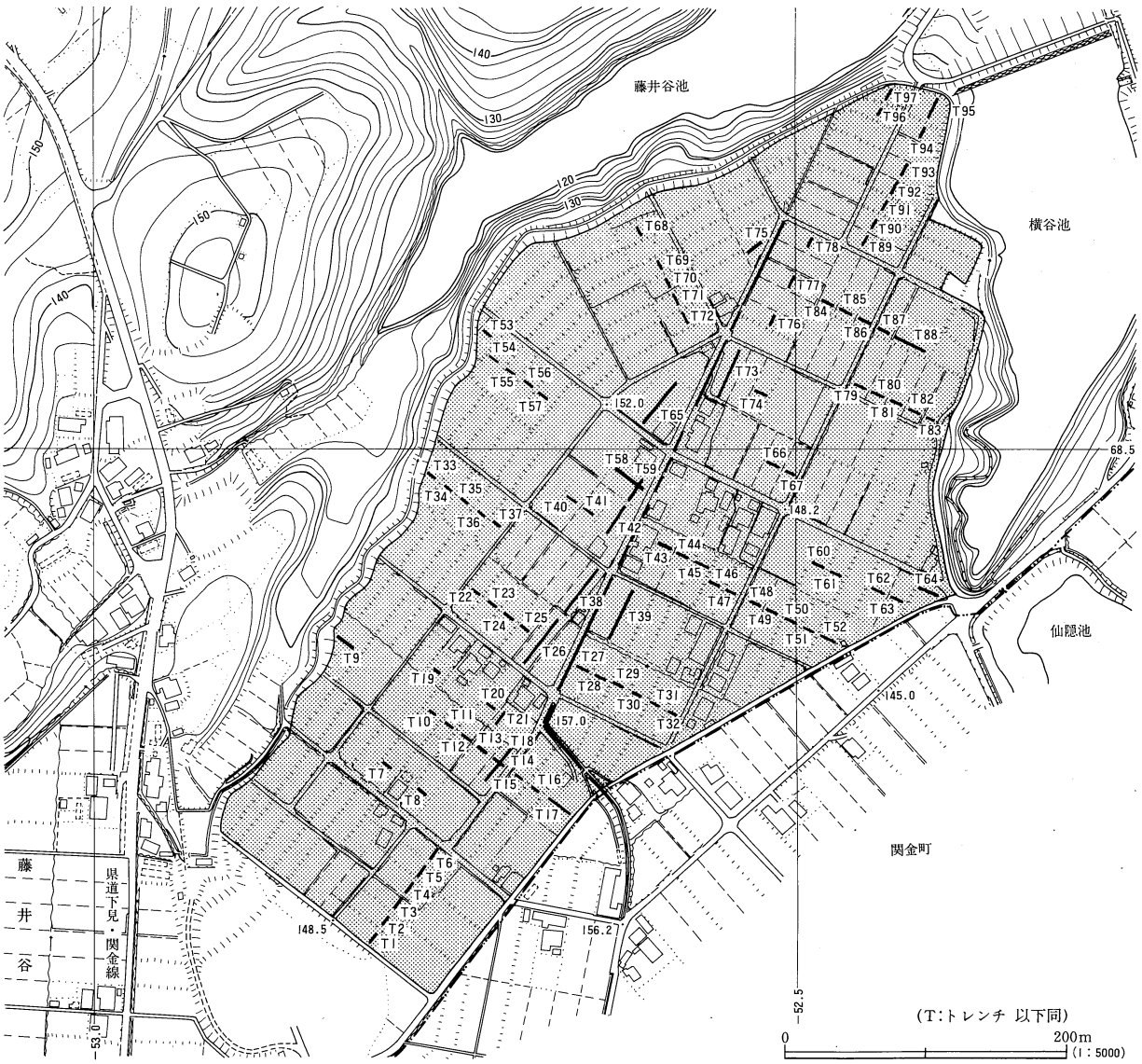
調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　2260㎡

調査担当　根鈴智津子、加藤誠司

調査概要　調査は、事業予定地内に97本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、縄文時代の落し穴・古墳時代の竪穴式住居等を検出した。またほぼ全域で遺物の出土あるいは散布が認められた。このため事前の発掘調査が必要である。



トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
1	2 × 9	18		
2	2 × 8	16		縄文土器・土師器
3	2 ×10	20	竪穴式住居	縄文土器・土師器・土師質土器
4	2 ×10	20		
5	2 ×10	20		
6	2 ×10	20		土師器
7	2 × 8	16		縄文土器
8	2 × 9	18		
9	2 ×15	30	落し穴	縄文土器・土師器
10	2 × 6	12		
11	2 × 8	16		
12	2 × 9	18		
13	2 × 8	16		
14	2 ×11	22		
15	2 × 7	14		
16	2 × 7	14		土師質土器
17	2 ×20	40		
18	2 ×30	60		
19	2 × 7	14		
20	2 × 8	16		
21	2 ×12	24		
22	2 × 8	16		土師器
23	2 × 8	16		
24	2 × 9	18		
25	2 × 8	16		
26	2 ×40	80		
27	2 ×10	20		
28	2 ×10	20		土師質土器
29	2 × 9	18		
30	2 × 8	16		
31	2 × 8	16		土師器
32	2 × 8	16		
33	2 × 8	16		
34	2 × 7	14		
35	2 × 7	14		
36	2 × 7	14		
37	2 × 7	14		
38	2 ×40	80		
39	2 ×40	80		
40	2 × 9	18		

トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
41	2×10	20		
42	2×24	48		縄文土器・土師器
43	2×11	22		
44	2×10	20		
45	2×11	22		
46	2× 9	18		
47	2× 9	18		
48	2× 9	18		
49	2× 9	18		
50	2×10	20		
51	2× 9	18		
52	2×12	24		
53	2× 8	16		
54	2× 9	18		
55	2× 9	18		
56	2× 8	16		
57	2× 8.5	17		
58	2×25	50		
59	2×19	38		
60	2×10	20		
61	2×10	20		
62	2×10	20		
63	2×10	20		
64	2×15	30		土師器
65	2×38	76		
66	2×10	20		
67	2× 8	16		
68	2× 8	16		
69	2× 8	16		
70	2× 8	16		
71	2× 9	18		
72	2×10	20		
73	2×38	76		磁器
74	2×10	20		
75	2×13	26	礫群	焼石
76	2× 9	18		
77	2×10	20		
78	2× 8	16		
79	2× 9	18		
80	2× 9.5	19		

トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
81	2×10	20		土師器
82	2×10	20		土師器
83	2× 6.5	13		
84	2×10	20		
85	2×10	20		
86	2×10	20		
87	2× 9.5	19		土師器・鉄製品
88	2×24	48		
89	2× 8	16		
90	2× 9	18		
91	2× 8.5	17		
92	2×10	20		
93	2×10	20		
94	2× 9	18	落し穴	土師器
95	2×15.5	31	竪穴式住居・土壙	縄文土器・土師器・須恵器
96	2× 7	14		縄文土器・土師器
97	2×10	20		縄文土器・土師器

2．大谷中尾地区（中尾遺跡）

調査地点　倉吉市大谷字中尾（なかお）

調査期間　平成７年４月17日～平成７年５月９日

調査契機　工業団地造成事業に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　368㎡

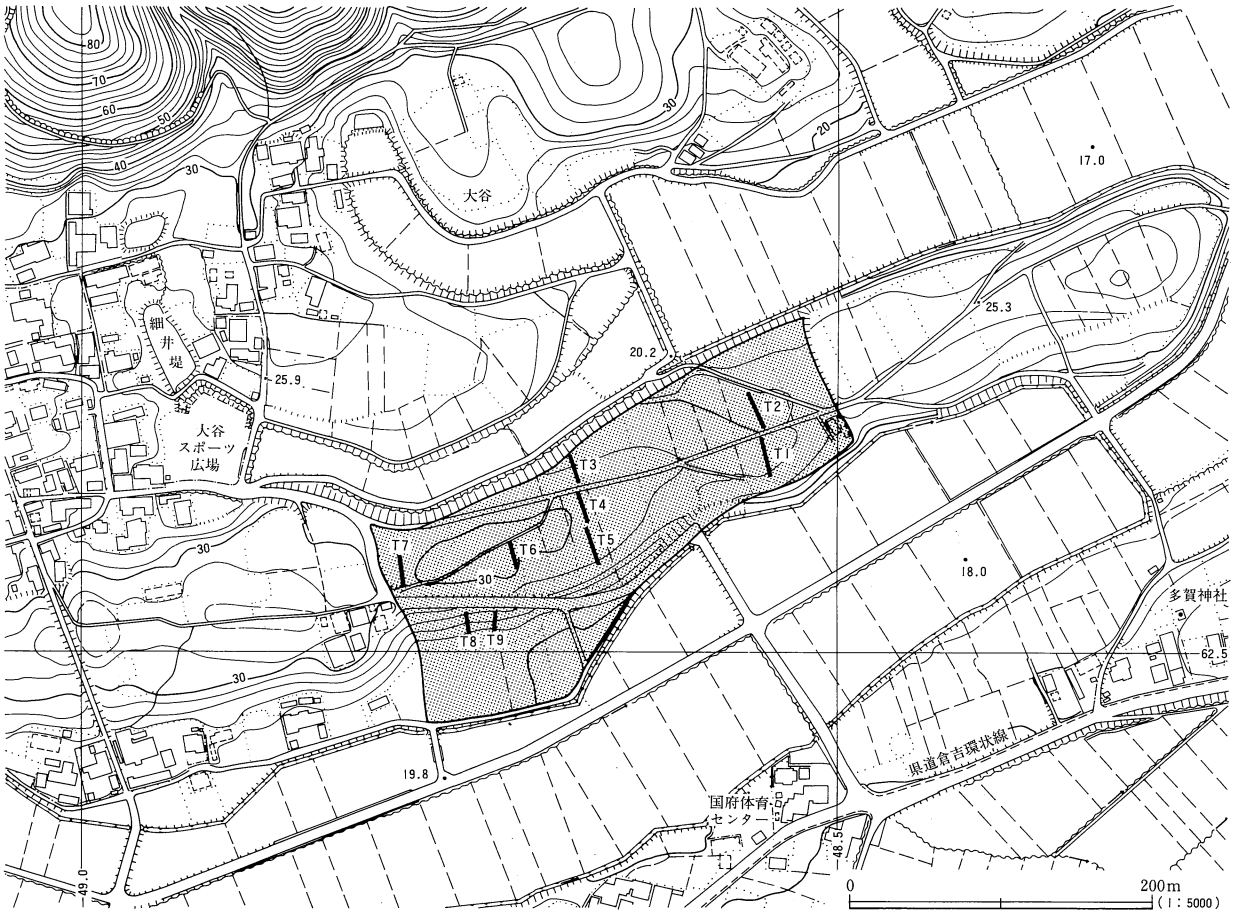
調査担当　森下哲哉

調査概要　調査は、事業予定地内の舌状台地に９本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、古墳の周溝・竪穴式住居等を検出した。またすべてのトレンチで遺物が出土している。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
1	2×26	52	古墳周溝・竪穴式住居・土壙	縄文土器・弥生土器
2	2×25	50	土壙	縄文土器・弥生土器・土師質土器・陶器
3	2×20	40		弥生土器・土師器・須恵器・陶器
4	2×20	40	古墳周溝	弥生土器・須恵器・土師質土器
5	2×26	52	古墳周溝・箱式石棺墓・竪穴式住居	土師器
6	2×18	36	古墳周溝・箱式石棺墓	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器 土師質土器・陶器

トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
7	2×21	42	古墳周溝	土師質土器
8	2×15	30	竪穴式住居	縄文土器・土師器・須恵器・土師質土器
9	2×13	26	竪穴式住居	土師器・須恵器・土師質土器



3．国府地区Ａ（両長谷遺跡）

調査地点　倉吉市国府字両長谷（りょうながたに）

調査期間　平成７年４月17日～平成７年５月９日

調査契機　産業廃棄物処理施設造成工事に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

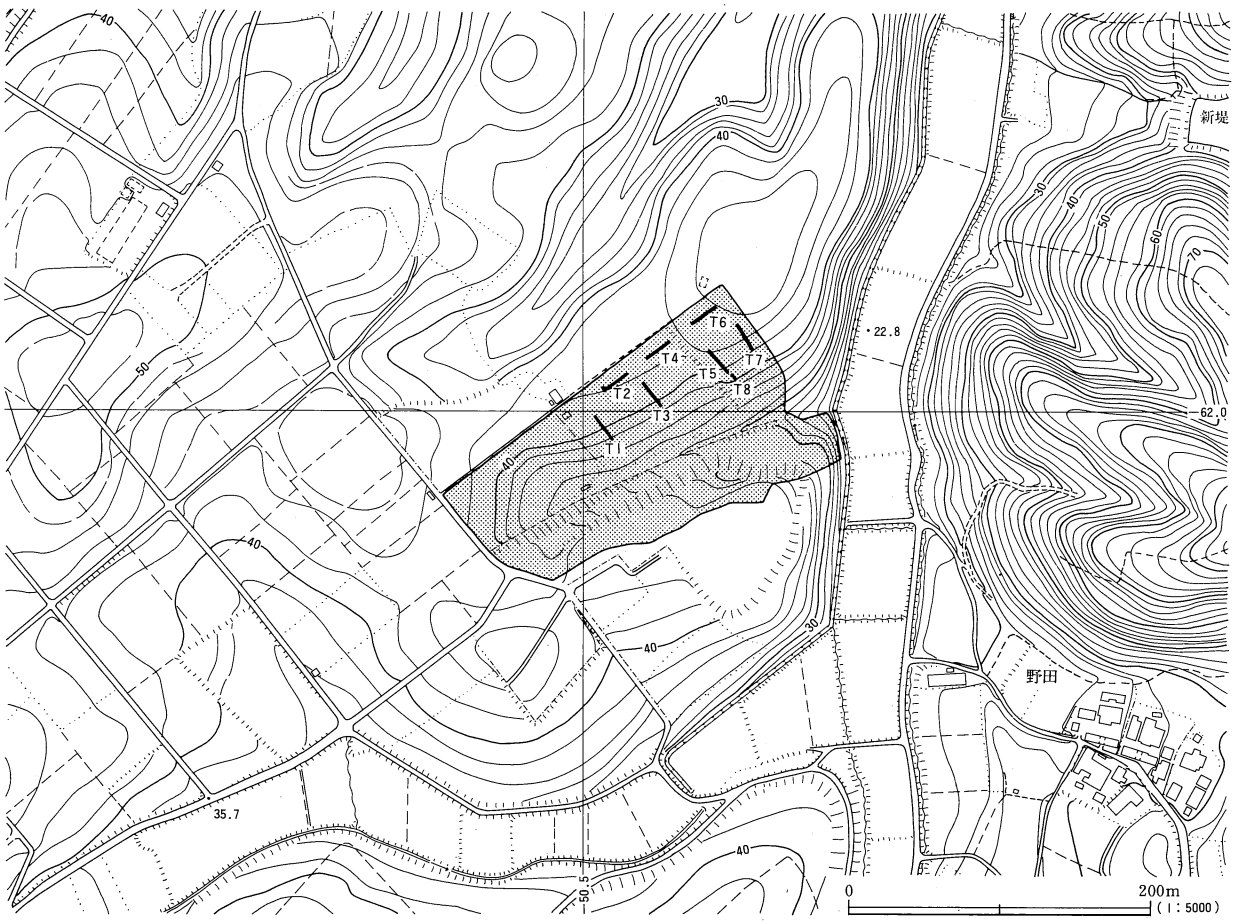
調査面積　290㎡

調査担当　岡本智則

調査概要　調査は、事業予定地内に８本のトレンチを設定して実施した。トレンチの土層は、基本的に表土、暗茶褐色土（漸移層）からなる。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、古墳・箱式石棺墓・竪穴式住居等を検出した。またほとんどのトレンチで遺物が出土している。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
1	2×20	40		弥生土器
2	2×20	40	ピット	弥生土器
3	2×20	40	住居状遺構	弥生土器
4	2×20	40		弥生土器
5	2×20	40	古墳・箱式石棺墓	弥生土器・須恵器・陶器
6	2×20	40	竪穴式住居・土壙	弥生土器
7	2×20	40		弥生土器
8	2×5	10		



4．国府地区Ｂ

調査地点　倉吉市国府字両長谷（りょうながたに）

調査期間　平成７年４月17日～平成７年５月９日

調査契機　産業廃棄物処理施設造成工事に伴う予備調査

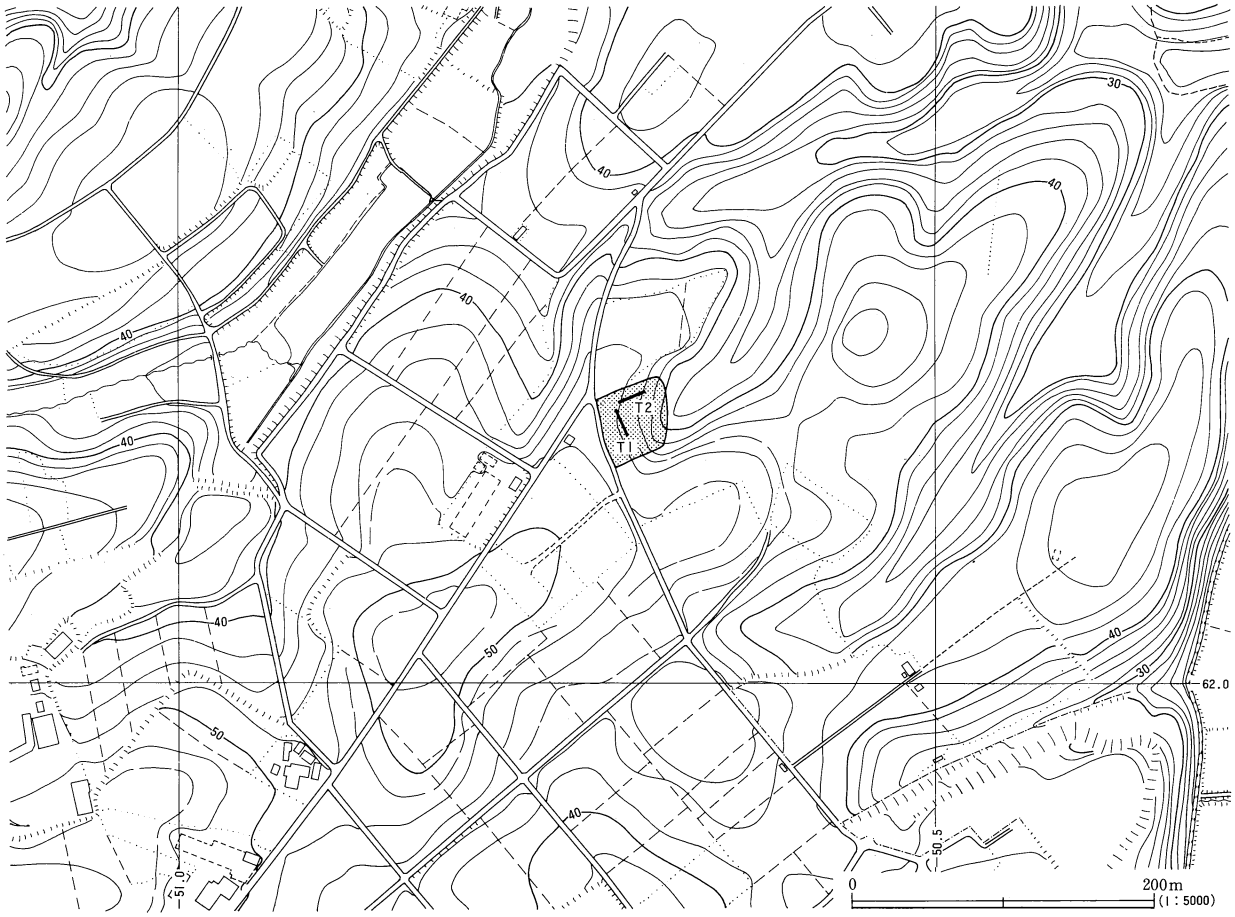
調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　80㎡

調査担当　岡本智則

調査概要　調査は、事業予定地内に幅２ｍ・長さ20ｍのトレンチを、２本設定して実施した。トレンチの土層は、基本的に表土、暗茶褐色土（漸移層）からなる。

調査の結果、第１トレンチより弥生土器が出土したが、遺構は検出されなかった。



5．不入岡地区

調査地点　倉吉市不入岡字湯ノ上（ゆのかみ）

調査期間　平成７年５月８日～平成７年６月１日

調査契機　河川改良事業に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

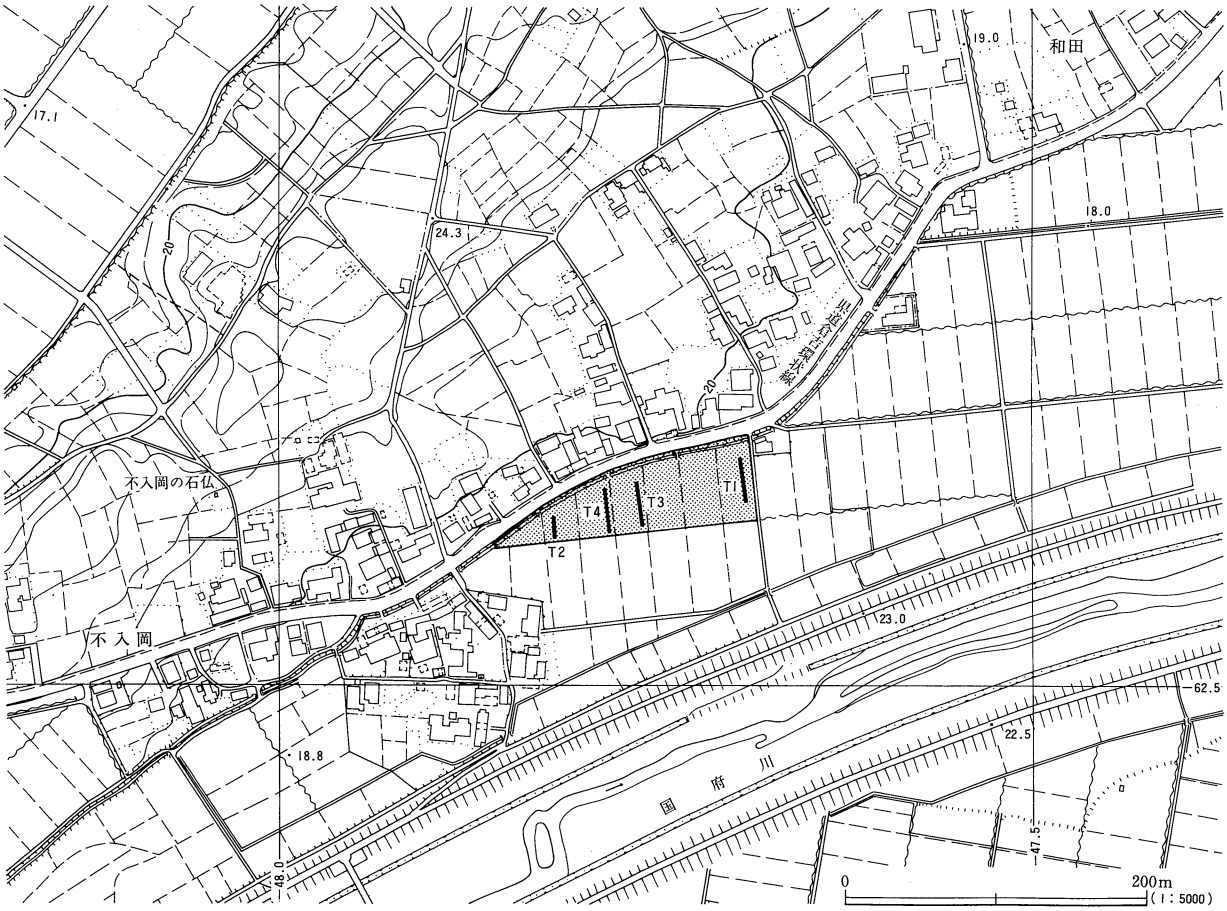
調査面積　210㎡

調査担当　竹宮亜也子

調査概要　調査は、事業予定地内に４本のトレンチを設定して実施した。トレンチの土層は基本的に耕作土、暗茶褐色粘質土、黒茶褐色粘質土からなる。いずれのトレンチも水田造成時の攪乱が認められた。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、河川跡や近年使用された井戸等が検出されたが、明瞭な遺構は確認できなかった。また遺物は、土師器・須恵器が出土したが、その多くは現代の陶磁器であった。

トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
1	2×30	60	ピット	弥生土器・土師質土器・陶器
2	2×15	30		土師器・須恵器・土師質土器・陶器・磁器
3	2×30	60	河川跡・溝	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・陶器 磁器・鉄器・黒曜石
4	2×30	60	河川跡・溝・井戸	弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・陶器・磁器・鉄器



6．住吉・駄経寺地区（大御堂廃寺）

調査地点　倉吉市住吉町、駄経寺町、駄経寺２丁目

調査期間　平成７年５月22日～平成７年７月４日

調査契機　旧興和紡績倉吉工場再開発事業に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　446.7㎡

調査担当　森下哲哉・岡本智則

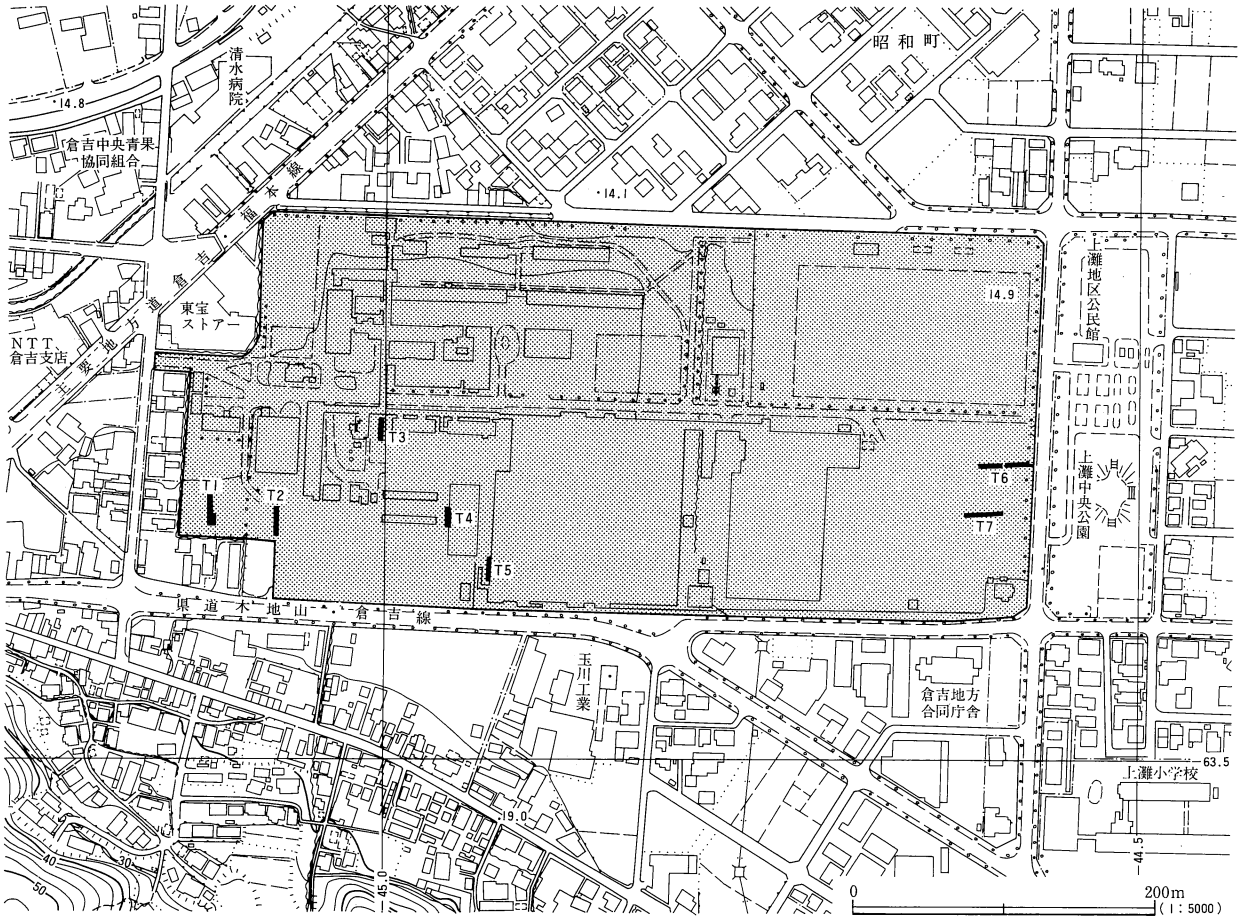
調査概要　調査は、事業予定地内の農業博覧会第１駐車場跡の住吉地区に５本、ラグビー場南隣の駄経寺地区に２本、計７本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、住吉地区の第１～５トレンチでは客土が厚く、その下層に旧水田耕作面が遺存していた。第１～４トレンチの旧水田床土以下は、シルト層、砂利層、砂層となり遺物を含んでおらず、遺構も確認することができなかった。第５トレンチでは旧水田の下層から、外道山より派生した丘陵の地山面を確認した。

駄経寺地区の第６・７トレンチでは、大御堂廃寺の東限と断定できる遺構は確認できなかったが、第７トレンチ東端で軒平瓦・軒丸瓦を含む瓦が固まって出土する、厚さ10～20cmの層（黒茶褐色粘質土）を確認した。第６トレンチ西区では、南北に流れる水路を確認し、水路の埋土より軒丸瓦・丸瓦・平瓦等の瓦が固まって出土し、内１点は完形の丸瓦である。瓦の出土範囲は、第６トレンチでは西区東端の水路部分、第７トレンチでは東端部分に集中しており、この２つの瓦群は南北同一軸上に位置しており、瓦の集中が南北に延びていると考えられる。

このため第５トレンチを含む東側工場敷地内に関しては、事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	規模（m）	面積（㎡）	検出遺構	出土遺物
1	3×20	60		
拡張	2× 7	14		
2	3×19.5	58.5		
3	3×16	32		
4	3×13.5	40.5		
5	3×16	48		縄文土器・打製石斧
6西	3×16.5	49.5	水路・地水抜き痕	土師器・瓦・刀金具・漆器
6東	3×15.5	46.5		
拡張	4× 1.3	5.2		
7	3×25.5	76.5	水路・地水抜き痕	土師器・瓦・鉄器



7．不入岡遺跡

調査地点　倉吉市不入岡字大林（おおばやし）

調査期間　平成７年７月３日～平成７年９月20日

調査契機　不入岡遺跡範囲確認試掘調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

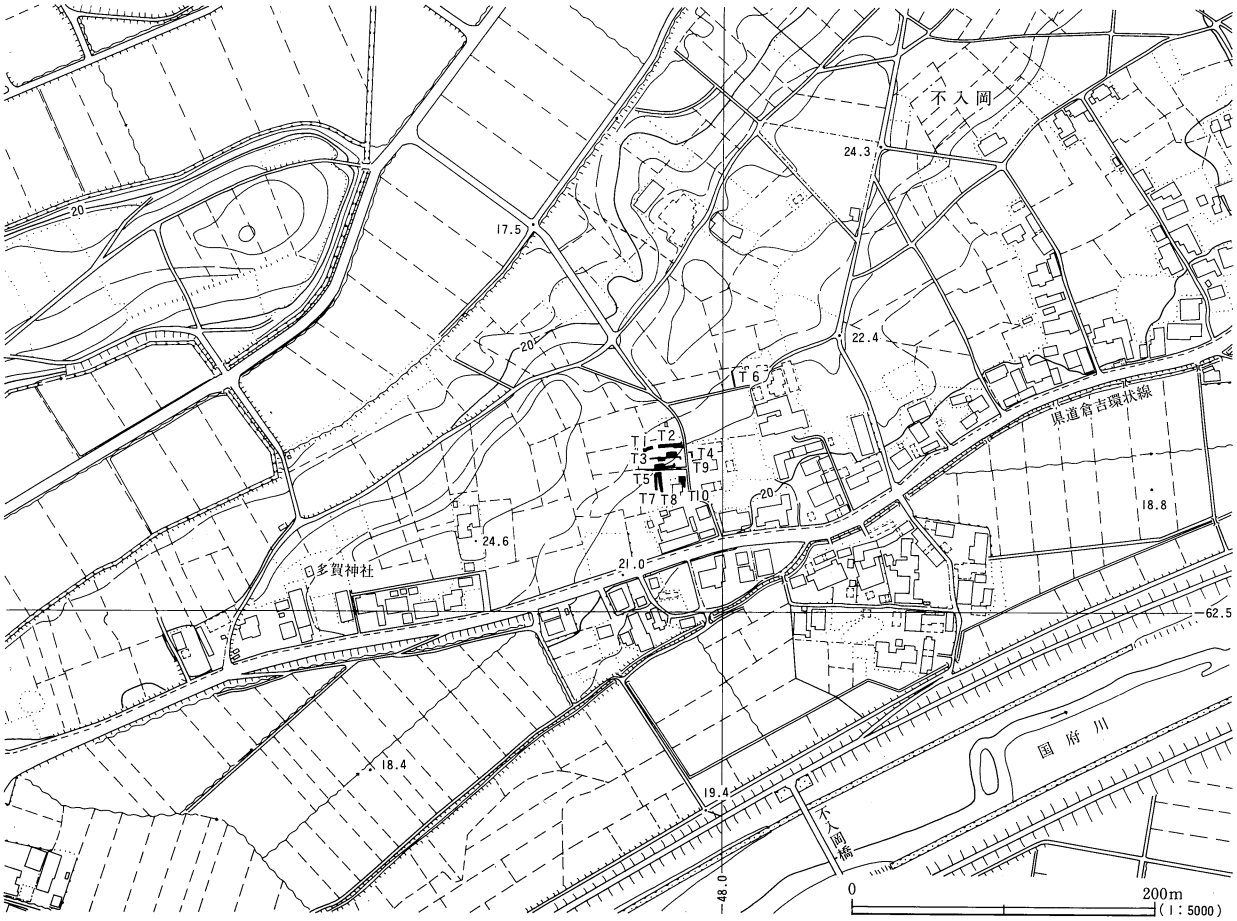
調査面積　253㎡

調査担当　竹宮亜也子

調査概要　調査は、不入岡遺跡の中心部分の建物配置構造を明らかにするために、10本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、官衙施設の中心となる建物（正殿か）を検出し、これを取り囲むように長大な建物がコ字状に配置されることが明らかとなり、古代官衙の独特な建物配置の可能性が高くなった。また、北側では発掘調査で検出された区画溝の続きと思われる黒色土の落ち込みを検出した。

トレンチ No.	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
1	17	柱穴	土師器・須恵器・土師質土器・陶器
2	43	柱穴	
3	60	柱穴	弥生土器・須恵器・陶器・五輪塔・釘
4	5	柱穴	
5	40	柱穴	土師器・須恵器・陶器
6	12	区画溝	土師質土器
7	21		弥生土器・須恵器
8	26		須恵器・陶器・土玉
9	3	柱穴	陶器
10	26	柱穴	弥生土器・土師器・陶器



8．桜寺ヶ市地区

調査地点　倉吉市桜字寺ヶ市（てらがいち）

調査期間　平成７年７月３日～平成７年７月17日

調査契機　大日寺位牌堂改築に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

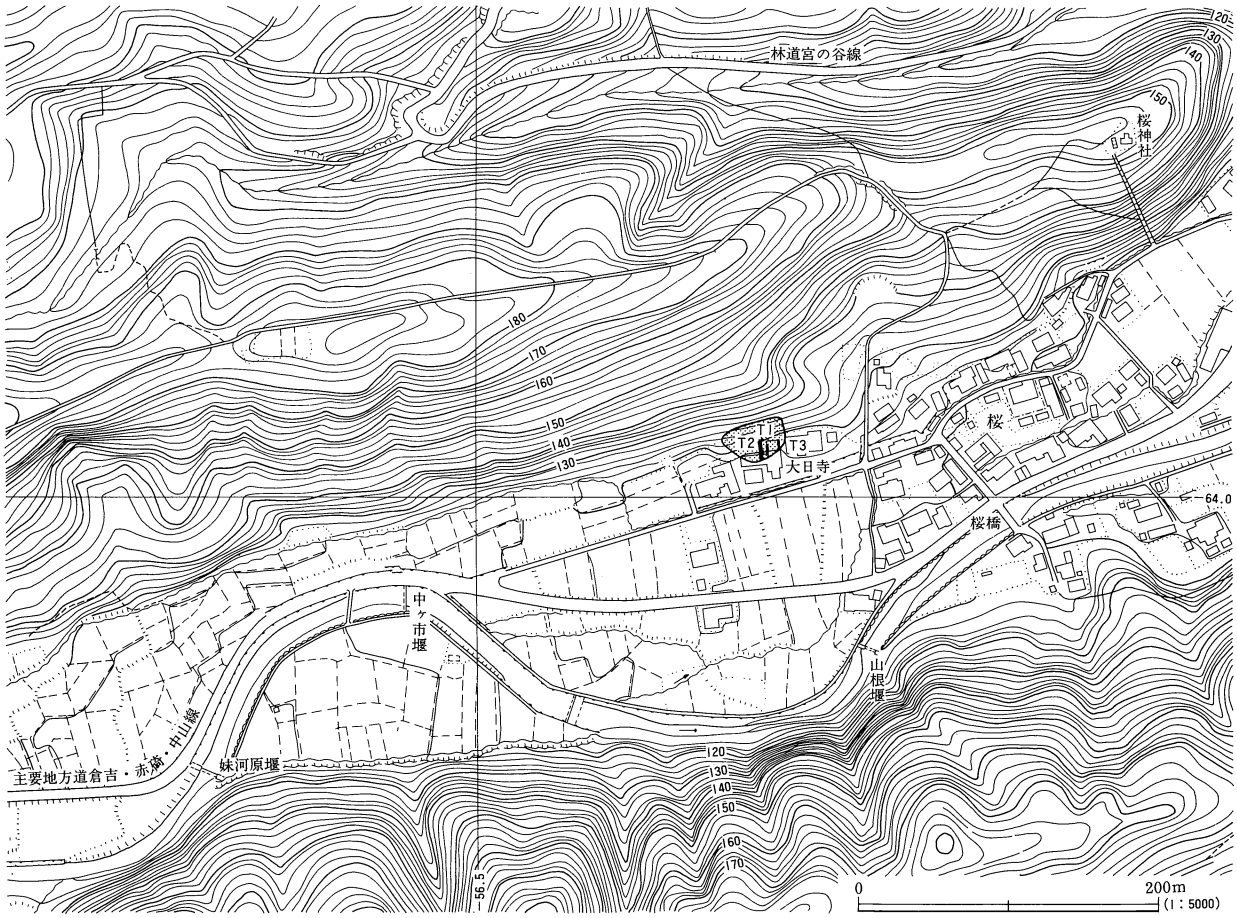
調査面積　44.74㎡

調査担当　岡本智則

調査概要　調査は、事業予定地内に３本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、各トレンチとも遺構はなく、遺物も攪乱土からの出土であった。

トレンチ No.	規模（m）	面積（㎡）	検出遺構	出土遺物
1	1.2× 8	9.6		碁石
2	2 ×11.5	23		須恵器・土師質土器・須恵質土器・陶器・磁器・金属器銙
拡張	1.2× 3.7	4.44		瓦
3	1.1× 7	7.7		土師器・須恵器・陶器・鉄器



9．尾原地区（伯尾山窯跡）

調査地点　倉吉市尾原字宮ノ上（みやのかみ）

調査期間　平成７年11月13日～平成７年11月30日

調査契機　急傾斜崩壊地のための予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

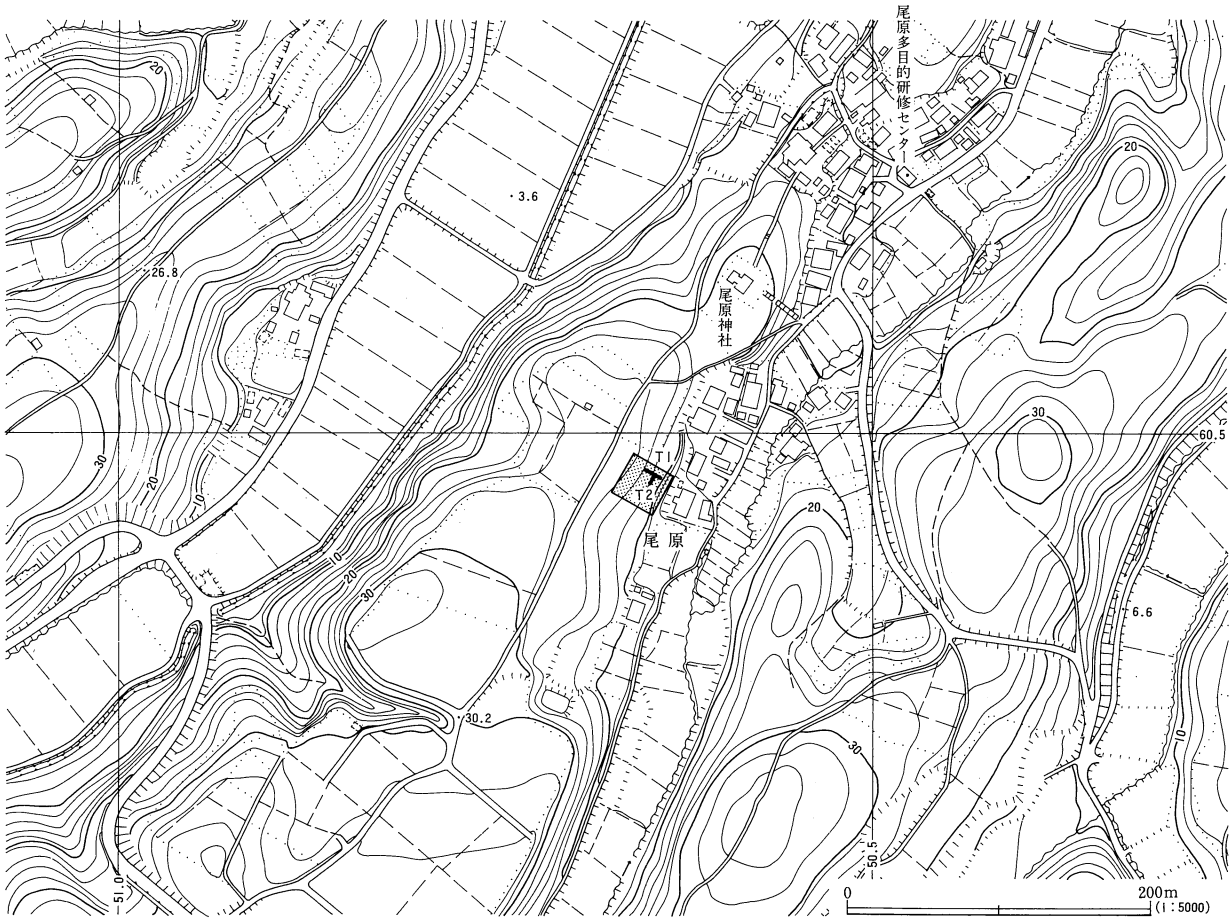
調査面積　36㎡

調査担当　根鈴輝雄

調査概要　調査は、事業予定地内に２本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

伯尾山窯跡は、明治初年に操業したと伝えられる茶陶窯で、調査により階段状連房式の登窯であることがわかった。窯内からは、安南写し・赤絵系などの陶磁器片及び窯道具が出土した。

トレンチ No.	規　模 (m)	面　積 (㎡)	検出遺構	出　土　遺　物
1	2×12	24	階段状連房式登窯	陶器・磁器・窯道具
2	2× 6	12		陶器・磁器・窯道具



10. 富海地区（下西野遺跡）

調査地点　倉吉市富海字下西野（しもにしの）、下長尾（しもながお）

調査期間　平成８年４月18日～平成８年４月26日

調査契機　一般県道倉吉環状線緊急地方道路整備工事（改良）に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

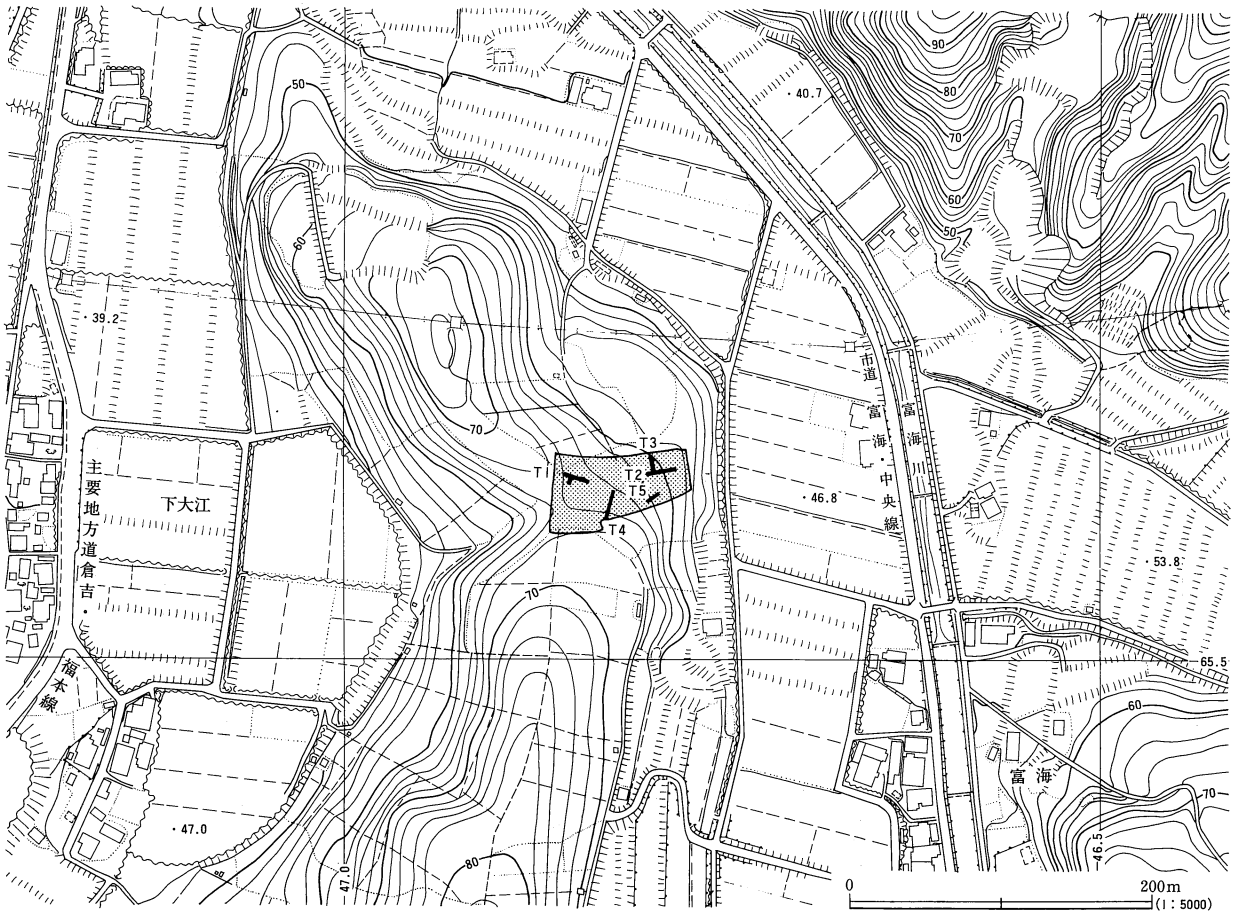
調査面積　168㎡

調査担当　加藤誠司

調査概要　調査は、事業予定地内に５本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、落し穴・古墳の周溝を検出した。また各トレンチより土師器・須恵器等の遺物が出土した。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
1	2×23	46	古墳周溝・落し穴	弥生土器・須恵器
2	2×20	40	落し穴	須恵器・土師質土器・陶器・磁器
3	2×11	22		須恵器・陶器・磁器
4	2×20	40		土師器・須恵器
5	2×10	20	落し穴	縄文土器・土師器・須恵器



11. 大谷片平山地区

調査地点　倉吉市大谷字片平山（かたひらやま）

調査期間　平成８年４月24日～平成８年５月９日

調査契機　農業施設建設に伴う予備調査

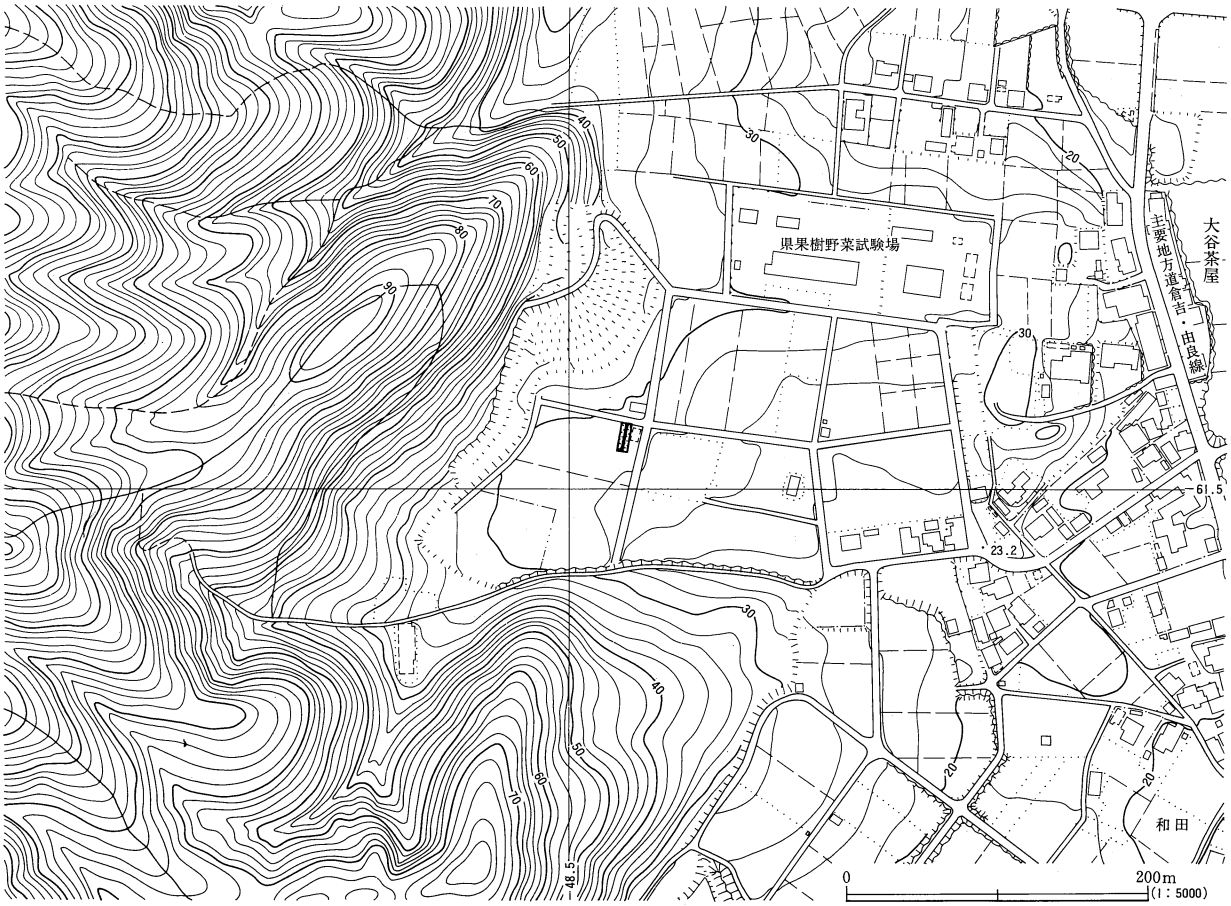
調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　38㎡

調査担当　森下哲哉

調査概要　調査は、事業予定地内の中央部分に、幅２ｍ・長さ19ｍのトレンチを、１本設定して実施した。

調査の結果、トレンチ中央に幅５ｍ前後の大きな攪乱穴があり、大部分が旧地形をとどめていない状態であった。このため遺構は検出されず、遺物も土師器片が数点出土したが、周辺からの流れ込みと思われる。



12. 大谷イザ原地区（イザ原遺跡）

調査地点　倉吉市大谷字イザ原（はら）

調査期間　平成８年４月24日～平成８年５月９日

調査契機　個人の開発に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

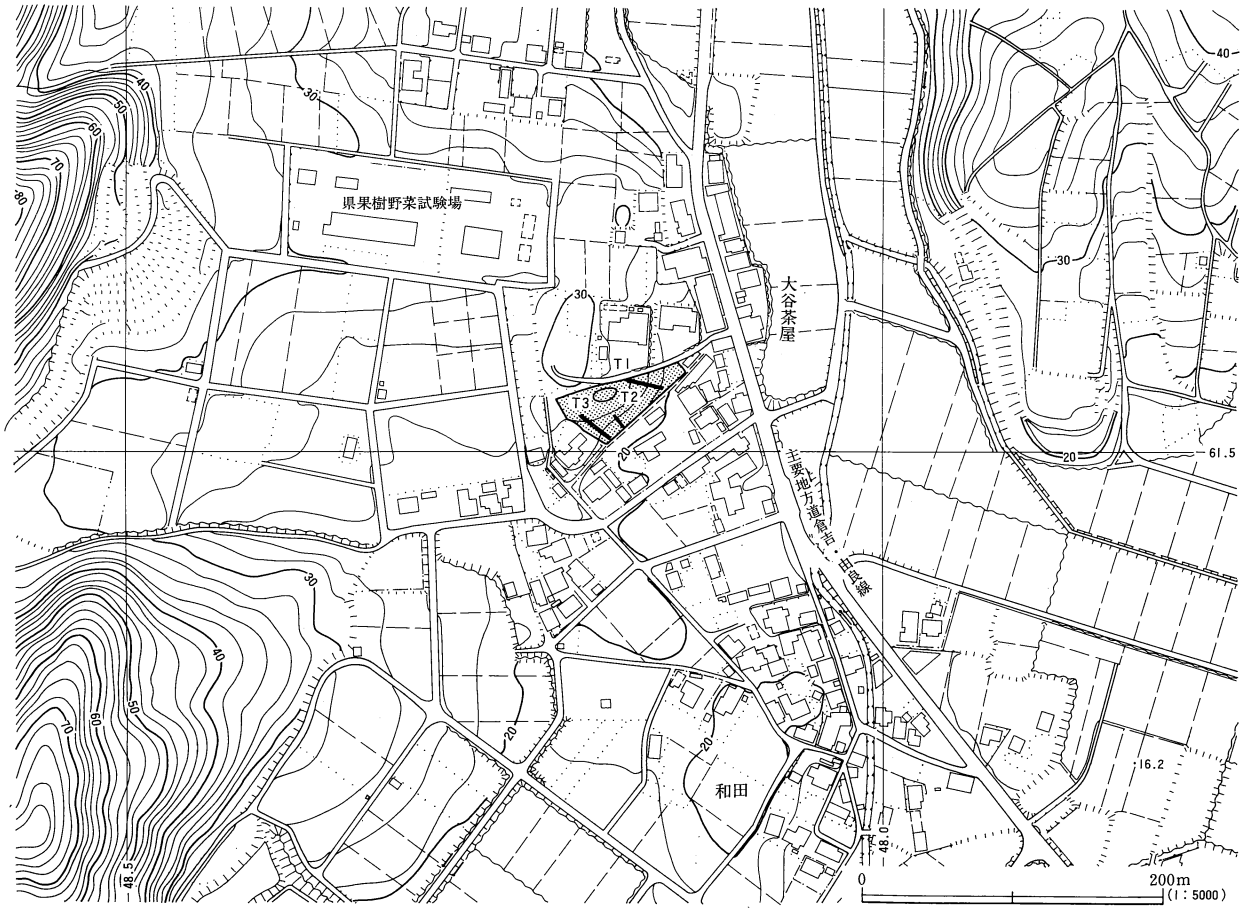
調査面積　119㎡

調査担当　森下哲哉

調査概要　調査は、事業予定地内に３本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、第１トレンチで古墳の周溝を検出した。また地形から、墓地が作られた部分と開発範囲西側で、古墳と考えられる高まりと古墳の周溝と考えられる凹地を確認した。この結果、事業予定範囲内には３基の古墳が存在すると思われる。丘陵斜面の下段に設定した第２トレンチでは、焼けた粘土、多量の焼土を確認し、攪乱された土の中から多くの瓦片が出土した。遺構全体の範囲はつかめなかったが、瓦窯跡を検出した。この瓦窯は明治の中頃に操業を開始し、昭和の初期まで使用していたものと思われる。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	規　模 (m)	面 積 (㎡)	検出遺構	出　土　遺　物
1	2 ×24.5	49	古墳周溝	弥生土器・土師器・須恵器・陶器
2	2 ×10	20	瓦窯跡	
3	2 ×25	50		弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・陶器



13. 山根地区（大平古墳群）

調査地点　倉吉市山根字大平（おおひら）

調査期間　平成８年５月13日～平成８年５月17日

調査契機　大平地区開発計画に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

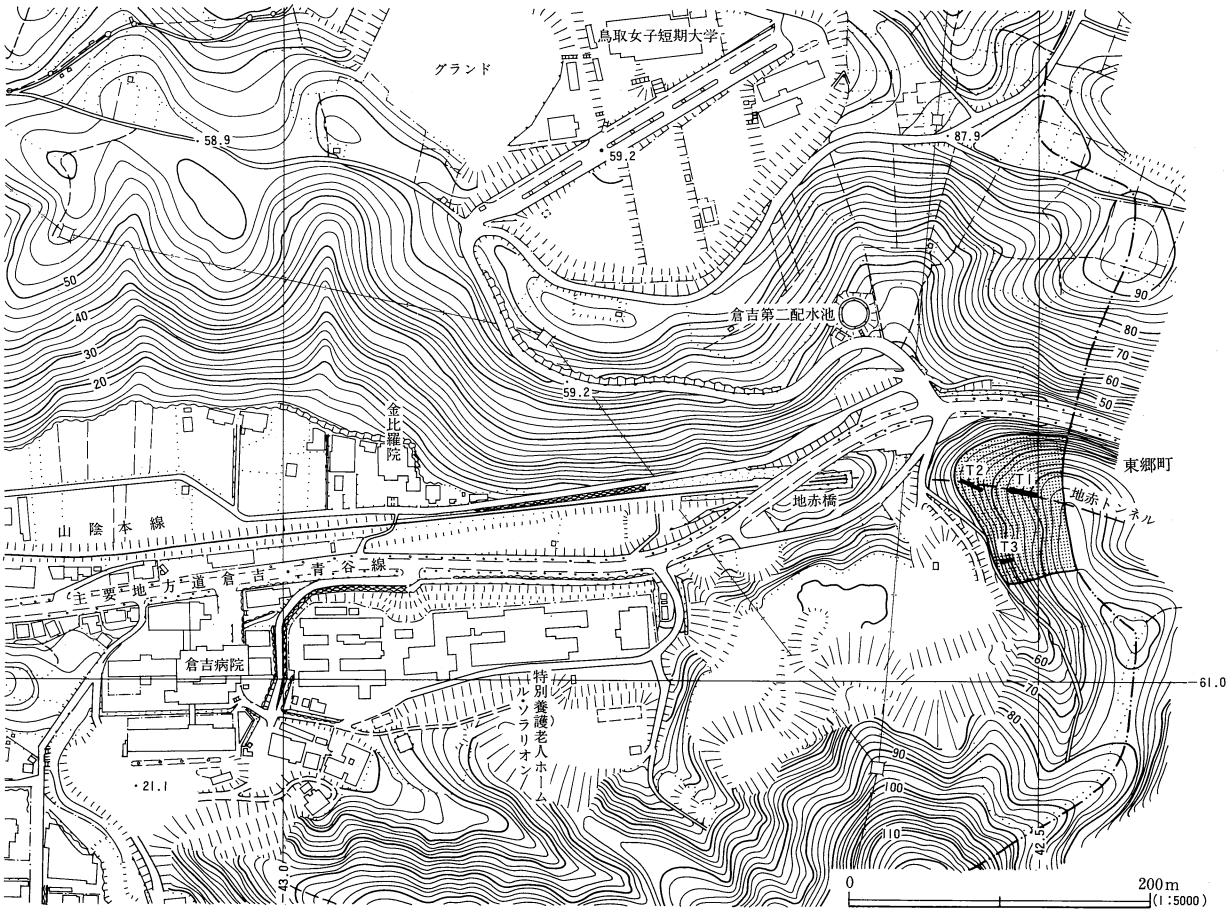
調査面積　101㎡

調査担当　加藤誠司

調査概要　調査は、事業予定地内に３本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、古墳の周溝・箱式石棺墓を検出した。また土師器片等が出土しており、事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	規模（m）	面積（㎡）	検出遺構	出土遺物
1	2×20.5	41	古墳周溝・箱式石棺墓	土師器・須恵質土器
2	2×21.5	43		
3	2× 8.5	17		土師器



14. 駄経寺地区

調査地点　倉吉市駄経寺町、駄経寺２丁目

調査期間　平成８年５月13日～平成８年６月７日

調査契機　興和紡績倉吉工場跡地再開発事業に伴う予備調査

調査方法　トレンチ・グリッドによる発掘調査

調査面積　310.05㎡

調査担当　眞田廣幸・森下哲哉・岡平拓也

調査概要　調査は、事業予定地内に５本のトレンチ（第１～５）と２個のグリッド（第１・２）を設定して実施した。各トレンチ・グリッドの面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、第１トレンチと第４トレンチの東側部分で、平成６年度予備調査で確認したものと同一のものであると考えられる旧水路を検出した。また第４トレンチでは、平成６年度に検出した木樋の西側延長部分を検出した。この木樋は、当初考えていた範囲よりも大きく西側に延びており、旧水路から西へ50mまで延びる。木樋の最終部分は、特別な施設はなく、木樋の口部分に瓦片を立てかけた状態で終わる。

第２・３・５トレンチと第１・２グリッドでの遺構検出はなく、旧水路床土以下自然地形状の層位を呈する。このため木樋を確認した第４トレンチ周辺については事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	面積（㎡）	検出遺構	出土遺物
1	46	旧河川	土師器・須恵器・瓦
2	44		瓦・土錘
3	46		瓦
4	110.05	旧河川・木樋掘り方	土師器・須恵器・瓦
5	44		瓦
G 1	10		
G 2	10		瓦
6	433.5	石敷・瓦溜まり・基壇築地塀・石列	塼仏・塑像・銅製品・銅滓・ガラス製丸玉・瓦・縄文土器・磁器・打製石斧
7	337	ピット群	鉄製品・羽口・瓦・土師器・須恵器・炭化物・縄文土器・弥生土器
8	117.5	溝・自然流路	佐波理匙・押出仏・銅製品・銅滓・窯壁塊・ガラス小玉・羽口・木製品・鬼瓦・瓦・土師器・須恵器・墨書土器
9	219.5	礎石建物	瓦・須恵器・陶器・磁器
10	27		瓦・土師器・須恵器

15. 大御堂廃寺（第１次）

調査地点　倉吉市駄経寺２丁目

調査期間　平成８年６月11日～平成８年11月11日

調査契機　興和紡績倉吉工場跡地再開発事業に伴う大御堂廃寺範囲確認調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

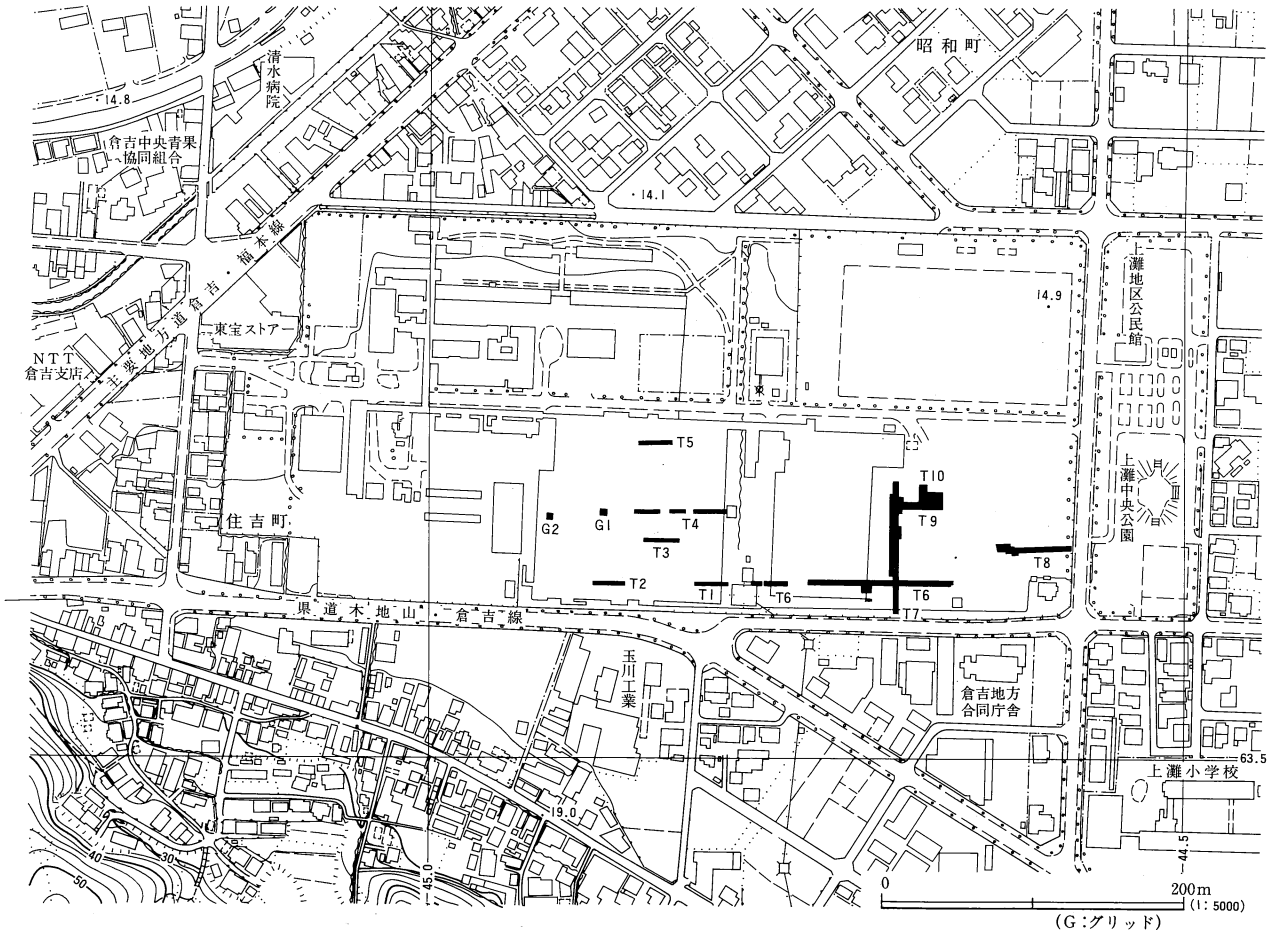
調査面積　1134.5㎡

調査担当　眞田廣幸・森下哲哉・根鈴智津子・岡平拓也

調査概要　調査は、大御堂廃寺の主要堂塔の位置及び遺存状況を確認するため、昭和28年に塔心礎が検出されたと推定される地点を割り出し、そこを交点に東西に第６トレンチを、南北に第７トレンチを設定した。また、寺域の東限を確認するため第８トレンチを設定した。

遺構検出面までの基本的な層序は、興和紡績工場造成時に盛られた客土、旧水田の耕作土、床土、遺物を包含する暗褐色土からなる。各遺構を検出したのは、現地表面から0.5～1.3mを測るが、旧水田面からは約0.2mと浅い。

第６トレンチの西端より、基底部幅約2.4m、高さ約0.2mの青灰色土の高まりを検出した。この高まりは、西側に雨落ち溝状の溝をもつこと、またその溝の埋土よりほぼ完形の瓦が転落したような状況で出土したこと、高まりは非常にきめの細かい版築が認められたことなどから、大御堂廃寺の西限を画する築地塀の痕跡であると考えられる。第６トレンチの中央部では、工場以前の水田耕作土の直下から、何らかの建物の基壇とその掘り込み地業（基礎工事）の跡が確認できた。しかし、工場による攪乱、水田による削平が激しく、規模・性格な



どは不明である。なお、この基壇付近で方形三尊塼仏の脇侍部分片、塑像片、凸面に「本上」とヘラ書きされた丸瓦が出土した。また、中央部やや東寄りでこぶし大の石が敷きつめられた状況を検出した。この石敷遺構は、後に述べる礎石建物の中軸線の南の延長線上にあたる。

南北に設定した第7トレンチの北端より、同じく旧水田直下より礎石列を検出し、その規模を把握するためにトレンチを東側に拡張した（第9・10トレンチ）。礎石建物の規模は桁行9間、梁行2間の身舎に南面に1間の庇、東西21m×南北7mの範囲で検出したが、北側及び東側は水田により削平されており建物の正確な規模をつかむことはできなかった。この礎石建物は、地域の少し東に寄るもののほぼ中央に位置すること、大規模な東西棟であること、周辺から多量の瓦片が出土することなどから、大御堂廃寺の主要堂塔の一つの講堂であると推定できるが、部分的な調査のため詳細については不明である。なお、第6・7・9・10トレンチより多量の瓦が出土している。

第8トレンチでは西端から大御堂廃寺の東限を画すると考えられる溝（SD01)、中央部・東端からは工場造成以前の旧水田を使用していた当時の自然流路（水路）を2本検出した。このうち、SD01は幅約1.5 m、深さ約0.2 mを測り、両側には杭を打ち横木を渡す。東岸には特に約30cmの河原石を積み護岸してある。溝内からは非常に多量の土師器・須恵器・瓦と共に、木製品数点と鬼瓦が出土した。土師器は伯耆国庁の第1期[(1)]のもの、また軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦は大御堂廃寺第4段階[(2)]のものである。またSD01の西から窯壁塊が、さらに西へ少し離れた位置からは佐波理匙が出土した。溝内から出土の土師器・須恵器には「久寺」「浄私」など、墨書のあるものが多数みられた。

第6トレンチで検出した築地塀の痕跡と、第8トレンチで検出したSD01から、寺域の東西は約170 mと推定できる。

註 (1) 『伯耆国庁跡発掘調査概報（5・6次)』　倉吉市教育委員会　1979年
(2) 眞田廣幸「伯耆大御堂廃寺考－奈良時代に於ける地方寺院の一形態について－」『山陰考古学の諸問題』　1985年

16. 和田地区（中峰古墳群）

調査地点　倉吉市和田字道和寺（どうわじ）、中峰（なかみね）、西門（にしもん）

調査期間　平成8年5月21日～平成8年5月30日

調査契機　一般国道 313号橋梁整備工事に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　150.8㎡

調査担当　加藤誠司

調査概要　調査は、事業予定地内に4本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、古墳の墳丘・周溝等を検出した。また土師器・須恵器が出土しており、事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	規模 (m)	面積 (㎡)	検出遺構	出土遺物
1	2 ×22.8	45.6	古墳周溝	土師器
2	2 ×24.5	49	古墳周溝	土師器
拡張	1.3× 6.5	8.45		
3	2 ×10.5	21	古墳周溝又は竪穴式住居	須恵器
拡張	0.5× 2.3	1.15		
4	2 ×11	22		須恵器
拡張	0.9× 4	3.6		

17. 中江地区（南屋敷遺跡）

調査地点　倉吉市中江字南屋敷（みなみやしき）

調査期間　平成８年７月11日～平成８年７月12日

調査契機　宅地造成工事に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　80㎡

調査担当　岡本智則

調査概要　調査は、事業予定地内に幅２ｍ・長さ20ｍのトレンチを、２本設定して実施した。トレンチの土層は、基本的に表土（耕作土）、灰色土、青灰色土からなる。

調査の結果、各トレンチから弥生土器・土師器・須恵器等の土器片が多量に出土した。また第２トレンチの表土下、0.8 ～1.0 ｍの深さで住居状遺構・溝状遺構を検出した。このため掘削が表土下 0.8ｍの深さに及ぶ場合は、事前の発掘調査が必要である。

18. 桜後ロ山地区（後ロ山遺跡）

調査地点　倉吉市桜字後ロ山（うしろやま）

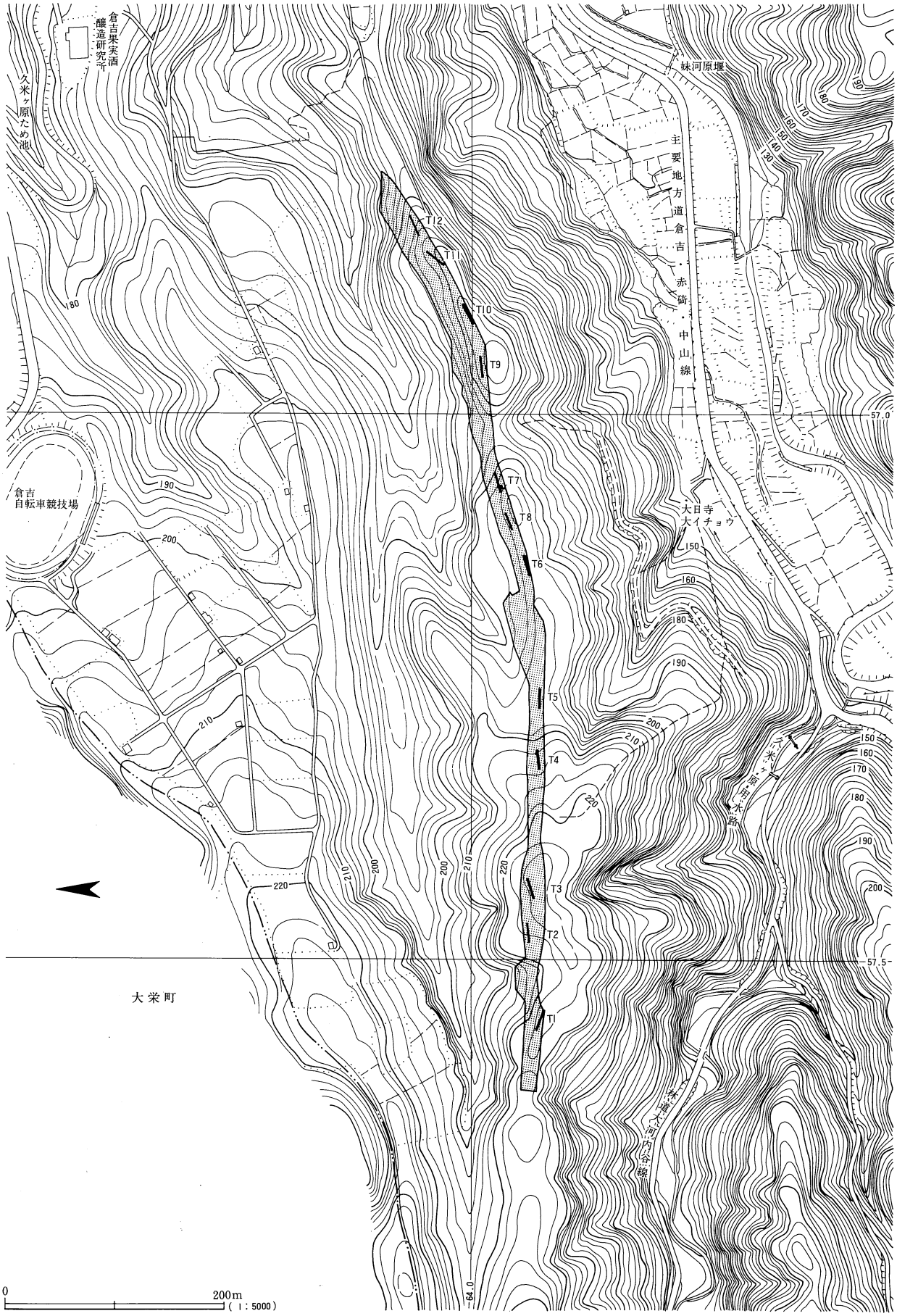
調査期間　平成８年９月２日～平成８年10月１日

調査契機　広域営農団地農道整備事業に伴う予備調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　469.8㎡

調査担当　加藤誠司


倉吉果実酒
醸造研究所
久米ヶ原ため池
妹河原堰
主要地方道倉吉・赤碕・中山線
T12
T11
T10
T9
T8
T7
T6
T5
T4
T3
T2
T1
倉吉
自転車競技場
大日寺
大イチョウ
久米・富士水路
大栄町
57.0
57.5
64.0
0
200m
(1:5000)

調査概要　調査は、事業予定地内の尾根筋に、12本のトレンチを設定して実施した。各トレンチの規模・面積・検出遺構・出土遺物については、表にまとめた。

調査の結果、第８・12トレンチ以外で縄文土器・磨石・焼石等の遺物が出土した。また第１・７トレンチで土壙を検出した。このため第１・７トレンチの周辺については事前の発掘調査が必要である。

トレンチ No.	規　模 (m)	面　積 (㎡)	検出遺構	出　土　遺　物
1	2×19.6	39.2	土壙	縄文土器
2	2×17.9	35.8		縄文土器・磨石
3	2×20	40		縄文土器
4	2×17.9	35.8		縄文土器
5	2×17.9	35.8		
6	2×20	40		土師器
7	2×25.6	51.2	土壙・炉	縄文土器
8	2×16	32		
9	2×20	40		土師器
10	2×20	40		
11	2×20	40		縄文土器
12	2×20	40		

19. 横田地区（福田寺遺跡）

調査地点　倉吉市横田字福田寺（ふくだじ）

調査期間　平成８年11月25日～平成８年11月28日

調査契機　市道横田久米ケ原線道路改良工事に伴う予備調査

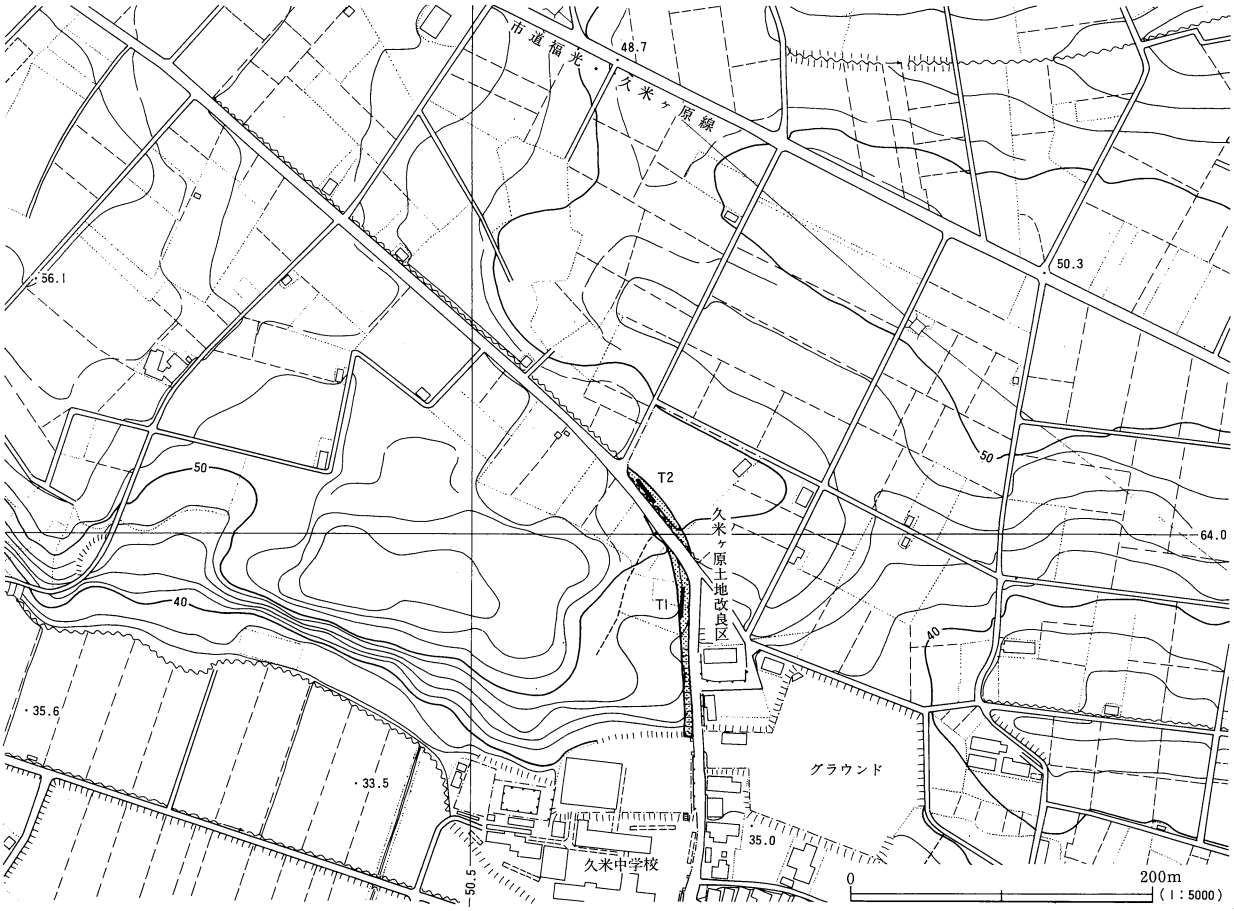
調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　78㎡

調査担当　加藤誠司

調査概要　調査は、事業予定地内に２本のトレンチ（第１トレンチ：幅２ｍ・長さ20ｍ、第２トレンチ：幅２ｍ・長さ19ｍ）を設定して実施した。

調査の結果、第１トレンチからは土師器・須恵器・土師質土器・土製支脚・石錘・凹石等の遺物が出土し、古墳の周溝を検出した。第２トレンチは広場の造成時に旧地表面が削平されており、遺構・遺物とも検出しなかった。このため事前の発掘調査が必要である。



20. 鋤・別所地区

調査地点　倉吉市鋤字後谷（うしろだに）、別所字城ヶ谷（じょうがだに）・大畑（おおばたけ）

調査期間　平成８年12月３日～平成８年12月18日

調査契機　谷原石山土捨て場用地開発事業に伴う予備調査

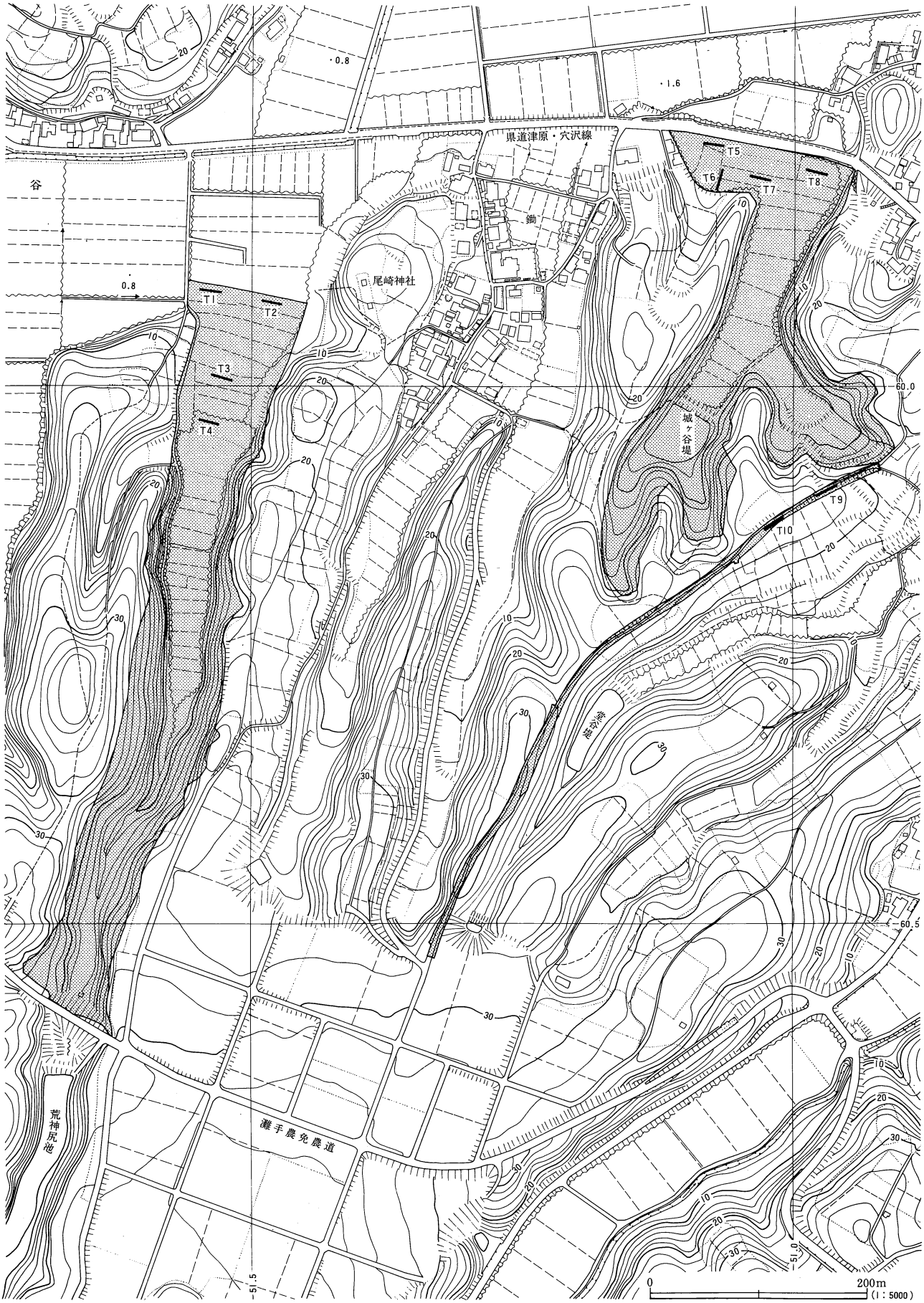
調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　400㎡

調査担当　加藤誠司

調査概要　調査は、事業予定地内のうち鋤地区の水田に４本、別所地区に水田に４本・丘陵に２本の計10本のトレンチ（幅２ｍ・長さ20ｍ）を設定して実施した。

調査の結果、第１～８トレンチで縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・瓦質土器・磨石が出土したが、いずれも耕作土とその下にある床土より磨滅した状態で出土した。床土より下層は、通称『泥炭』と呼ばれている植物遺体を多く含む粘土層であった。遺構は検出しなかった。


県道津原・六沢線
谷
尾崎神社
鋤
T1
T2
T3
T4
T5
T6
T7
T8
T9
T10
城ヶ谷堤
荒神尻池
灌手農免農道
0.8
1.6
60.0
60.5
51.5
51.0
0
200m
(1：5000)

21. 大原廃寺（第５次）

調査地点　倉吉市大原字亀井谷口（かめいだにぐち）

調査期間　平成８年12月26日～平成９年３月４日

調査契機　史跡大原廃寺の範囲確認調査

調査方法　トレンチによる発掘調査

調査面積　153.4㎡

調査担当　眞田廣幸・加藤誠司

調査概要　大原廃寺の発掘調査は、これまでに昭和60・62年度・平成２・４年度の４次に渡って実施した。これらの調査により、塔跡と金堂跡を確認している。寺域については、明確な遺構が見つかっていないが、南側と西側に人工的なカット面が存在することより、76m四方の寺域が推定されるに至っている。今回の調査は、不明瞭であった塔基壇の規模と構造を確認すること、塔跡と金堂跡以外の主要建物を発見することを目的として行った。

第１トレンチ（22㎡）　寺域推定線東辺近くに設定した。東から西に低くなる地形を南北方向に２カ所でカットした３面の平坦面を確認した。中央の平坦面では礎石根石と判断される集石群が２カ所検出されている。集石は東西方向で、間隔は約 1.8mである。最も高い平坦地でも１カ所で集石を検出しているが、中央平坦面の集石との関連は不明である。

第２トレンチ（18㎡）　塔跡の北約10mに設定した。東半分は２次調査のトレンチと重複する。西半分より直径約50cmの土壙が１つ検出された。土壙の性格は、未掘のため不明である。トレンチ掘り下げ中に緑色の玉が見つかった。玉は復元直径約17mm・遺存度1／2 、表面は劣化して部分的に白色である。この玉は、鎮壇具の一部とも考えられる。

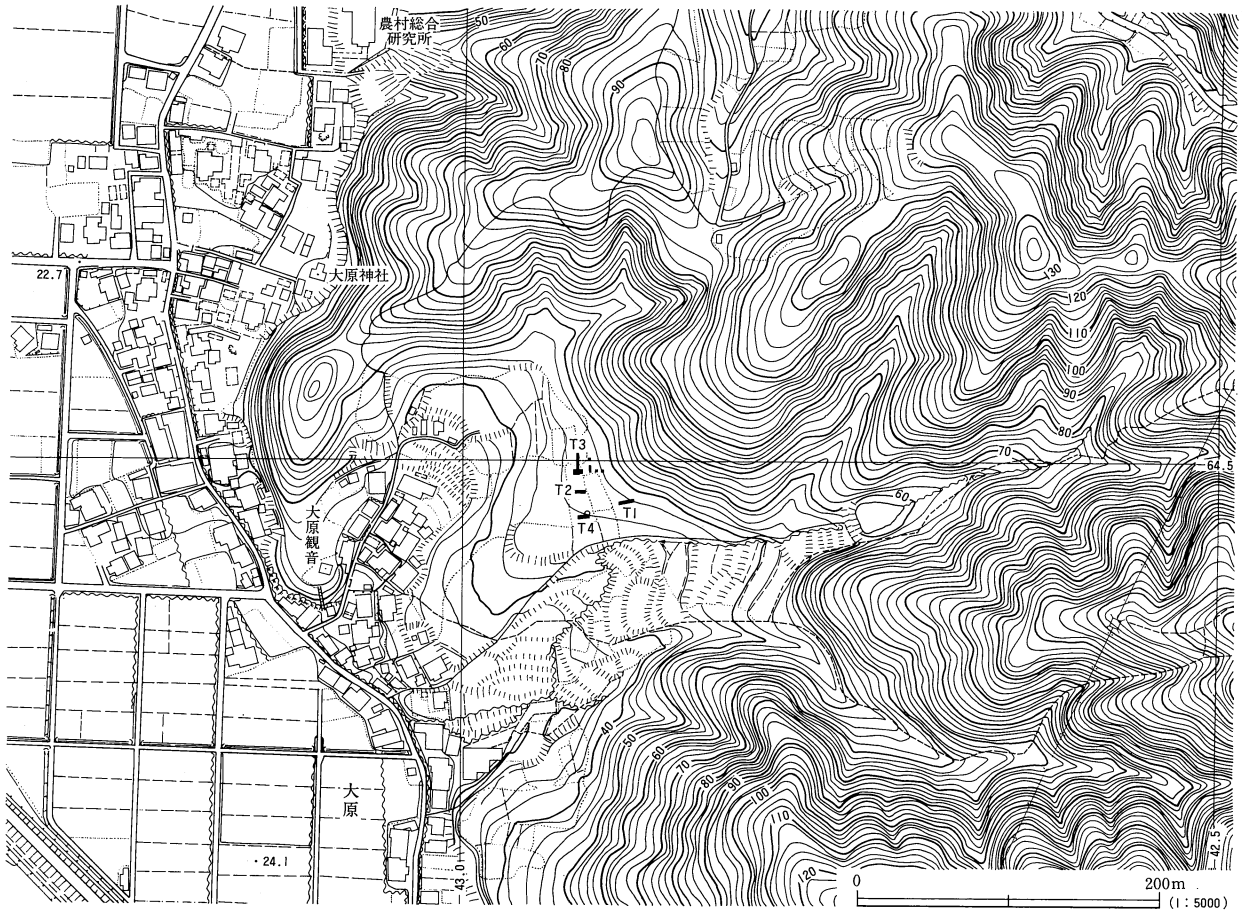
第３トレンチ（39.3㎡）　寺域推定線の北辺近く、寺域中軸線上とその東側に設定した。南北４間×東西４間分、柱間約 2.8mの礎石建跡の礎石と根石掘り方を検出した。建物跡は東にもう１間伸びる可能性がある。建物の南北軸は、国土座標軸Ｎ３°Ｅで、塔基壇の軸にほぼ一致する。

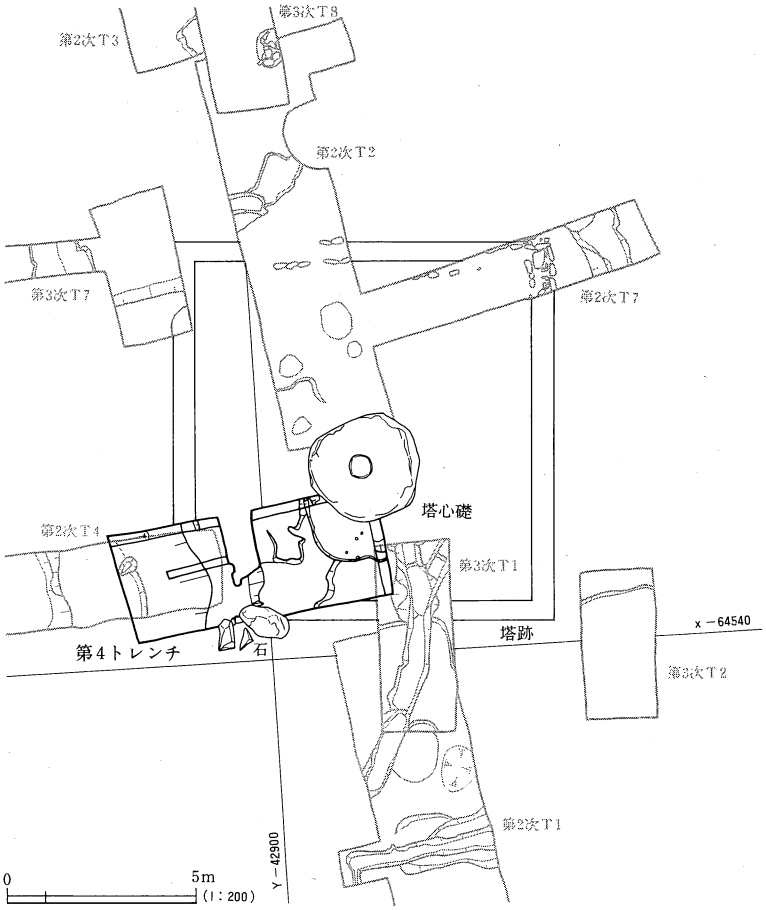
第４トレンチ（74.1㎡）　塔心礎の南西部分に設定した。トレンチ北側の東西サブトレンチで、断面観察より東半分で幅約 1.4m・厚さ約 0.4mにわたって版築を確認した。版築は、礫混じり粘質土と大山倉吉軽石層（Ｄ・Ｋ・Ｐ）が薄く互層状に堆積する。東西サブトレンチの西側では南北方向に約10cmの段差を検出した。塔基壇の西辺と考えられる。また、塔心礎の南側で心礎落とし込み穴があり、礎石が南に１ｍほど移動していると判断された。

遺物は各トレンチより瓦、土師器、須恵器が出土した。このうち瓦は、軒丸瓦Ⅰ類１点、軒丸瓦Ⅳ類２点、軒平瓦Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅳ類各１点が出土した。

以上の調査結果により、塔心礎が南に動かされていることが確認され、基壇西辺と推定される段差から２次調査で確認している北東隅までの距離を復元すると、塔基壇は一辺約９ｍになる。

また、寺域推定線北辺近くで礎石建物跡を確認した。建物規模は部分的な発掘のため不明である。建物の性格は、その検出場所と状況より僧房、食堂、政所等の可能性が想定される。今後の調査を待って確定したい。





大原廃寺（第５次）
第４トレンチ平面図

22. 大谷向野地区（向野遺跡）

調査地点　倉吉市大谷字向野（むこうの）

調査期間　平成９年１月17日～平成９年１月27日

調査契機　県立倉吉農業高等学校女子寮新築整備事業に伴う予備調査

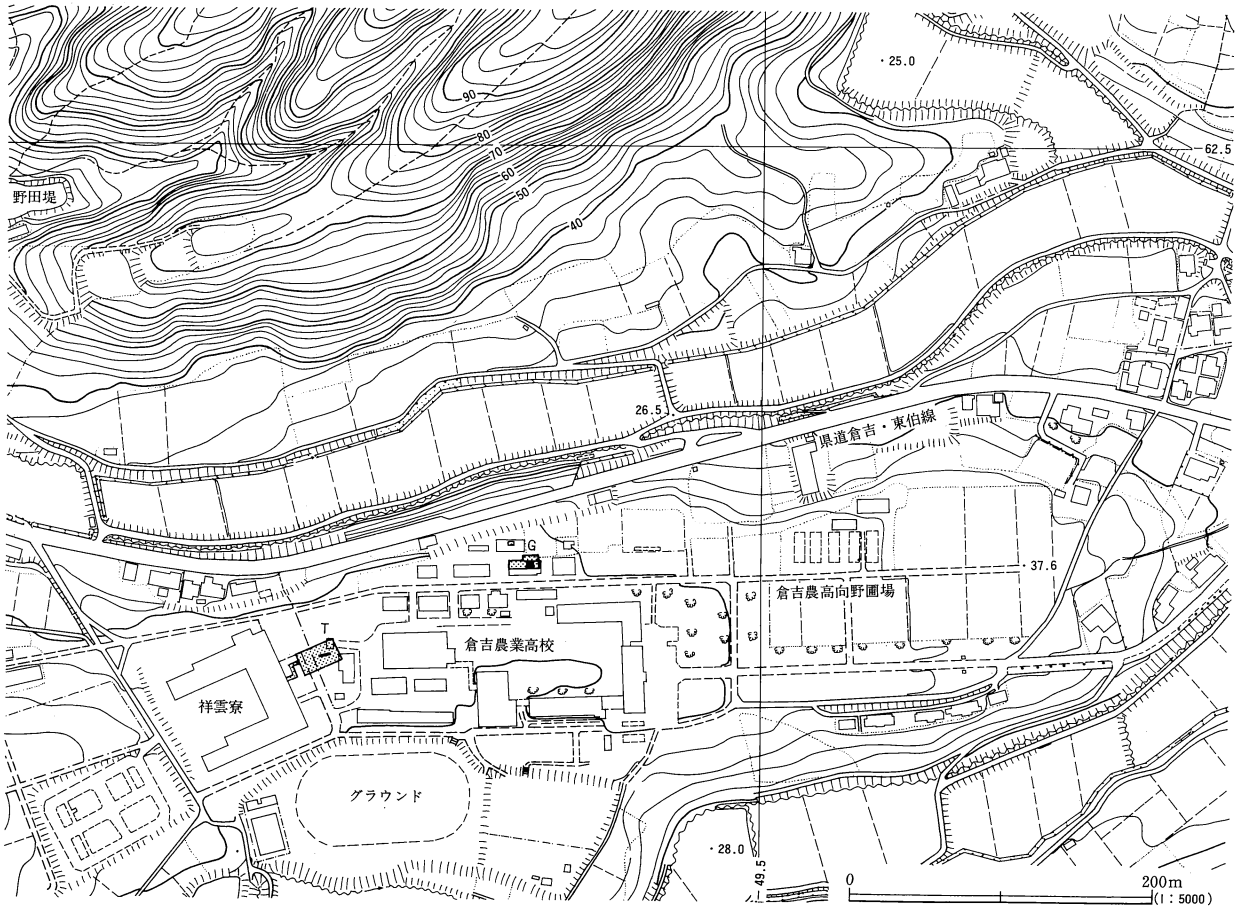
調査方法　トレンチによる発掘調査

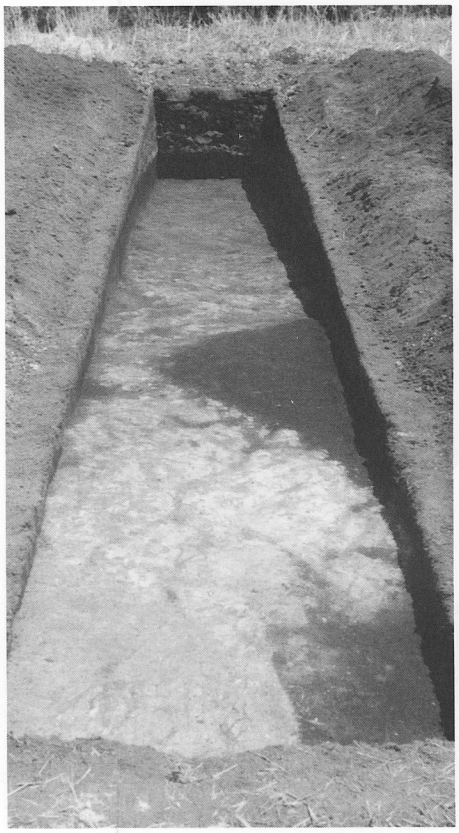
調査面積　36㎡

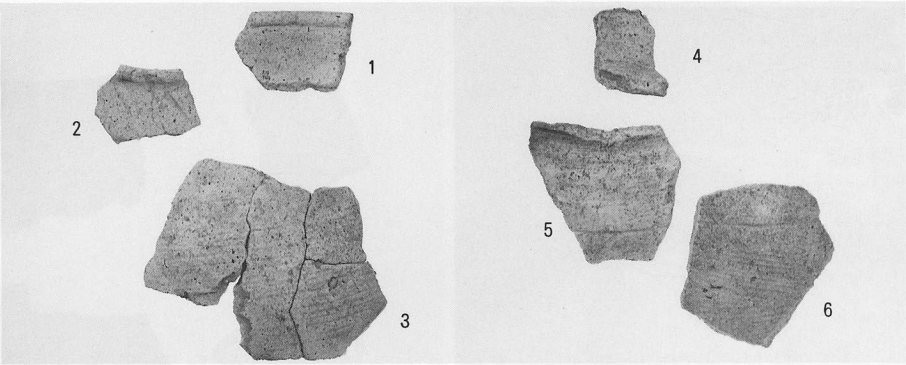
調査担当　岡本智則

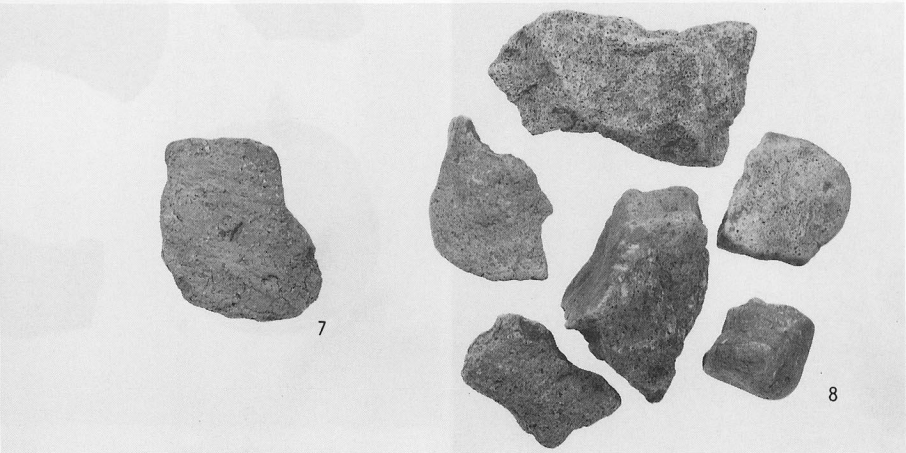
調査概要　調査は、丘陵尾根筋よりやや北側緩斜面上に４×４ｍのグリッド、丘陵尾根筋上に２×10ｍのトレンチを設定して実施した。

調査の結果、グリッドからは遺構・遺物とも検出しなかったが、トレンチからは南北に延びる溝状の遺構を検出した。溝は幅約２ｍ・深さ約 0.2ｍあり、さらに底面を幅約 0.3ｍ・深さ約 0.1～ 0.5ｍの溝が掘り込まれ、溝の底・壁面全体に焼土を確認した。遺物は溝内より奈良・平安時代の土師器・須恵器・瓦が出土した。このためトレンチ周辺に関しては、事前の発掘調査が必要である。









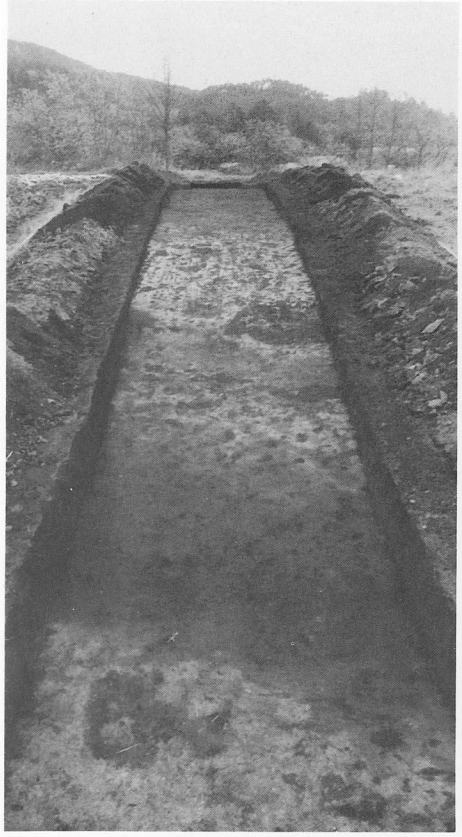
志津地区△第３トレンチ（北東より）

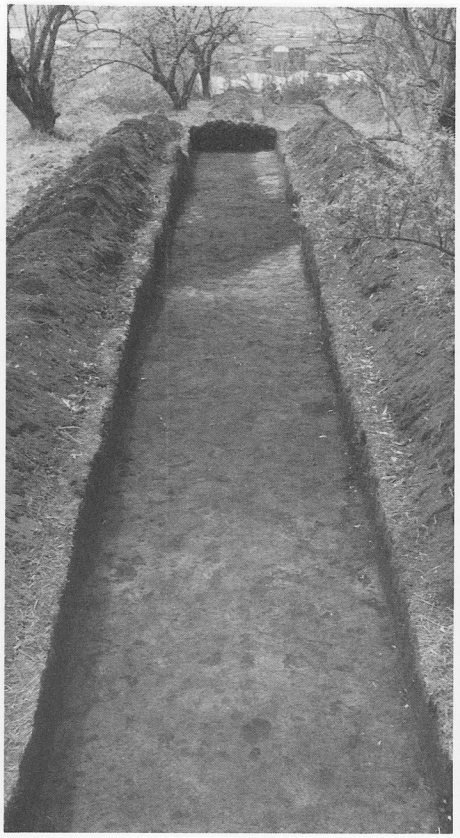
▽第95トレンチ（南西より）

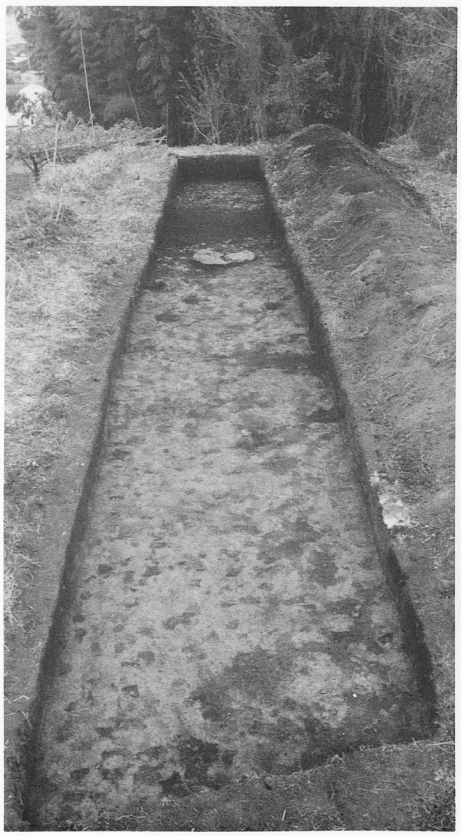
志津地区◁第９トレンチ（南東より）▷第75トレンチ（南西より）

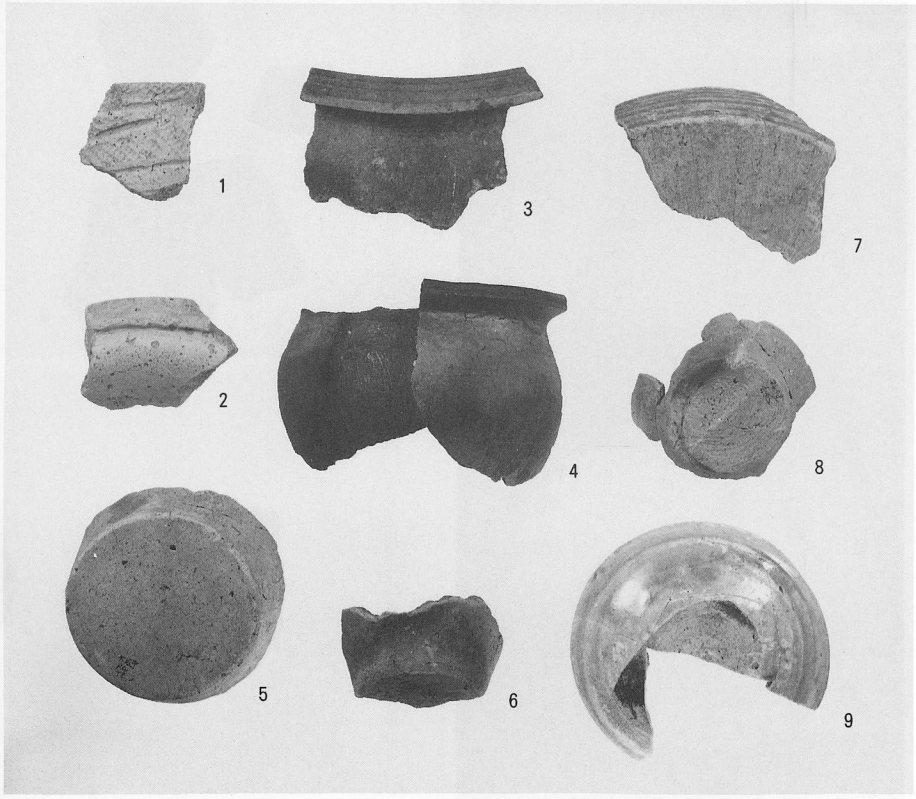
▽出土遺物１：３

図版 2



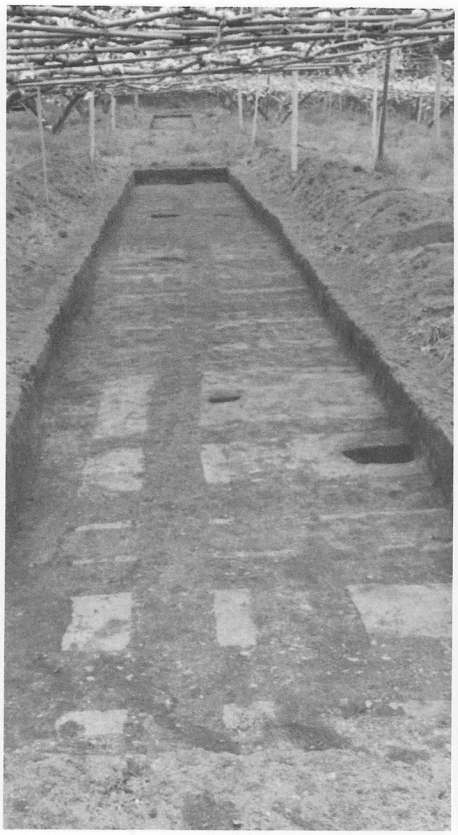


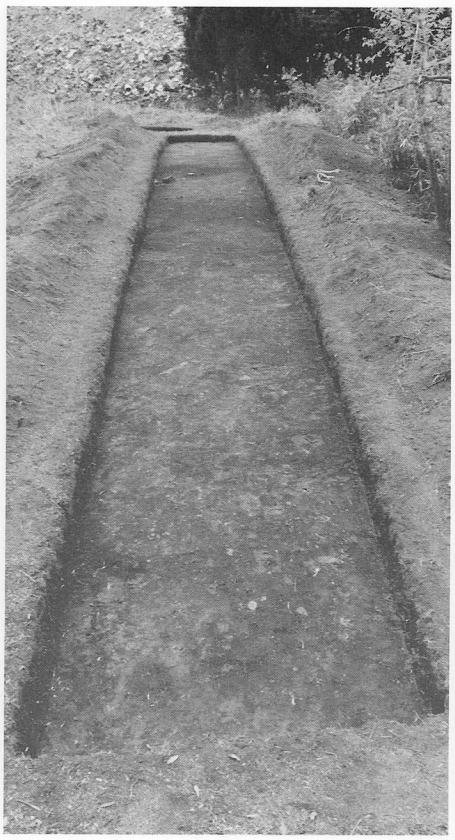


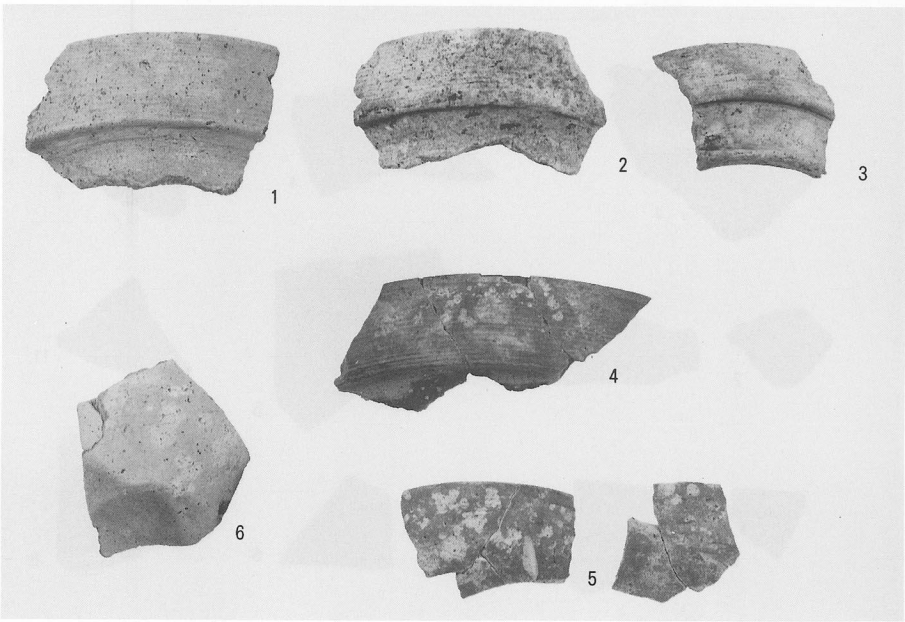


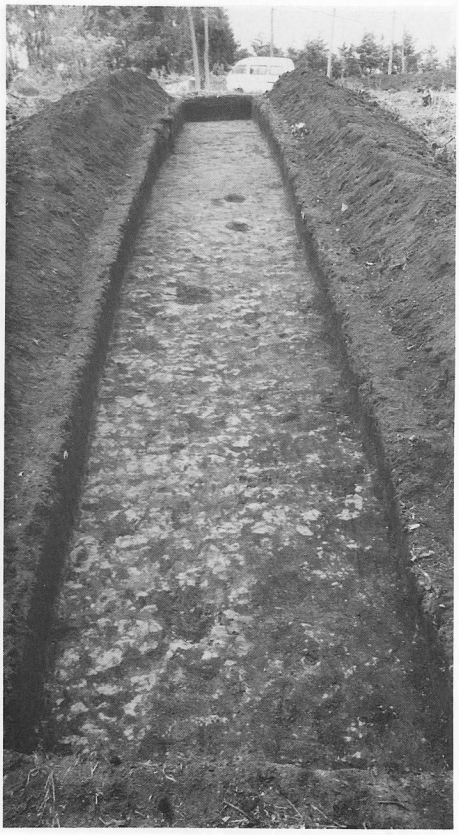
大谷中尾地区△第１トレンチ（南より）
▽第６トレンチ（北より）

大谷中尾地区◁第４トレンチ（北より）▷第５トレンチ（南より）
▽出土遺物１：３





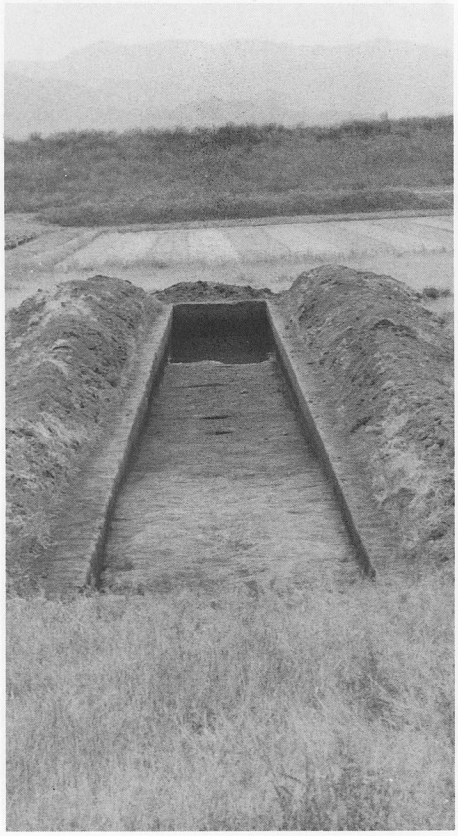


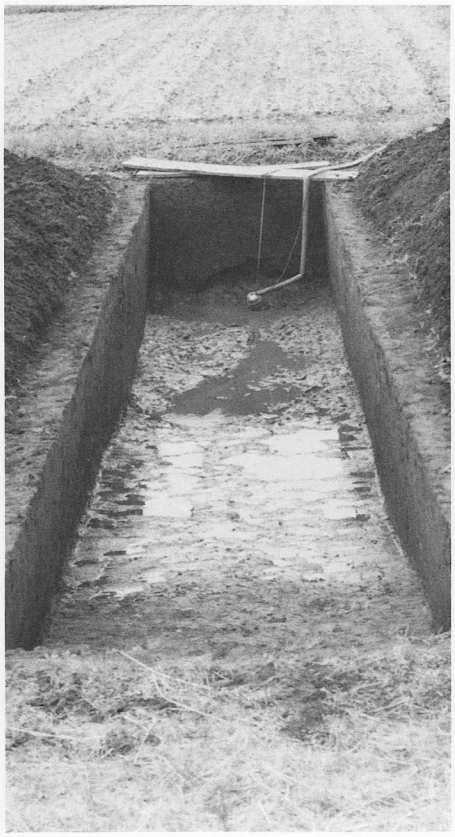


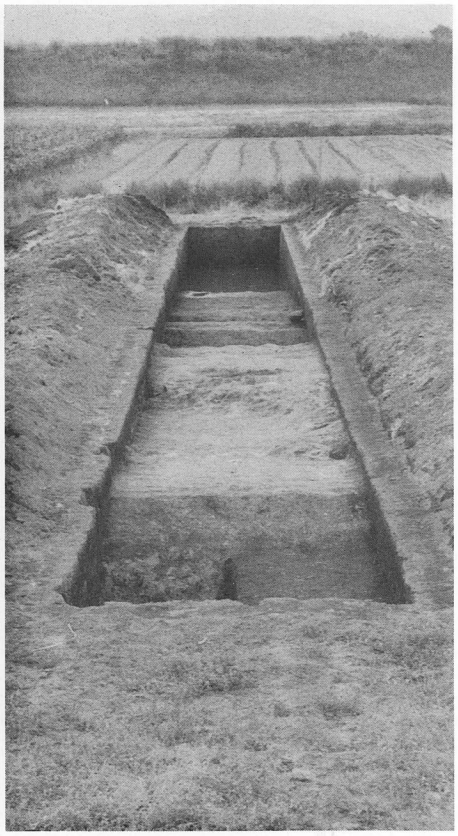
国府地区A◁第2トレンチ（南西より）▷第5トレンチ（北西より）
▽出土遺物 1：3

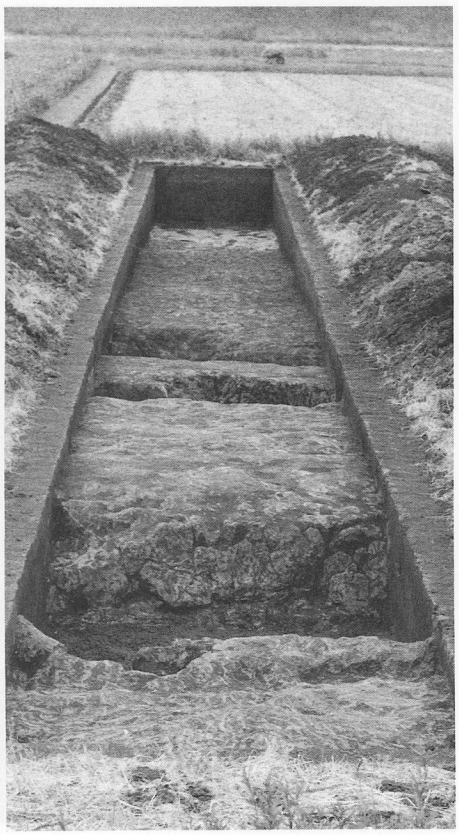
国府地区A△第6トレンチ（南西より）
国府地区B▽第1トレンチ（南東より）

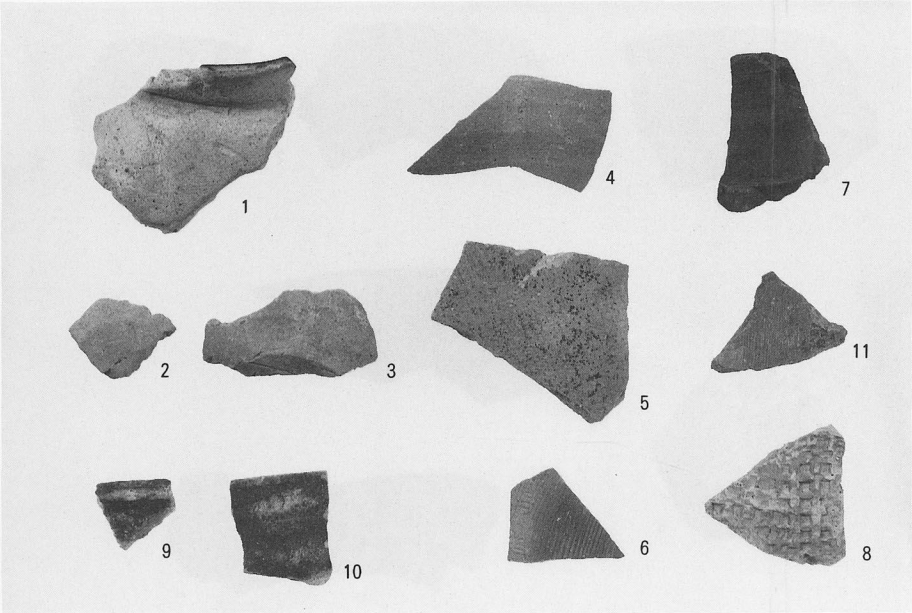
図版 4









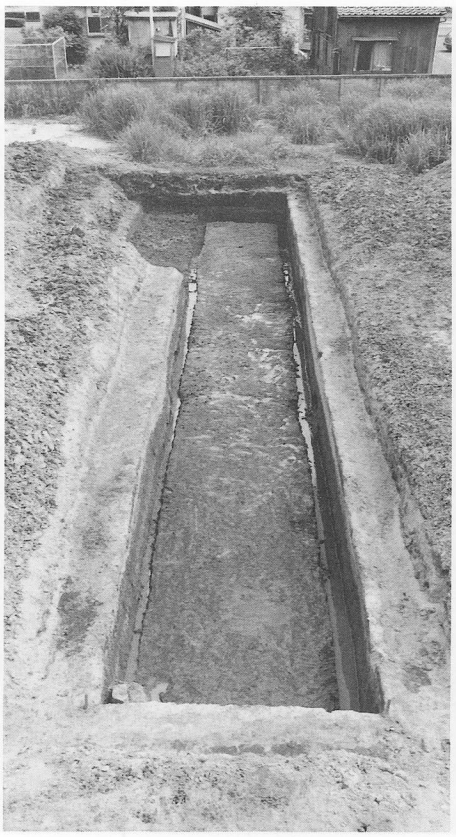


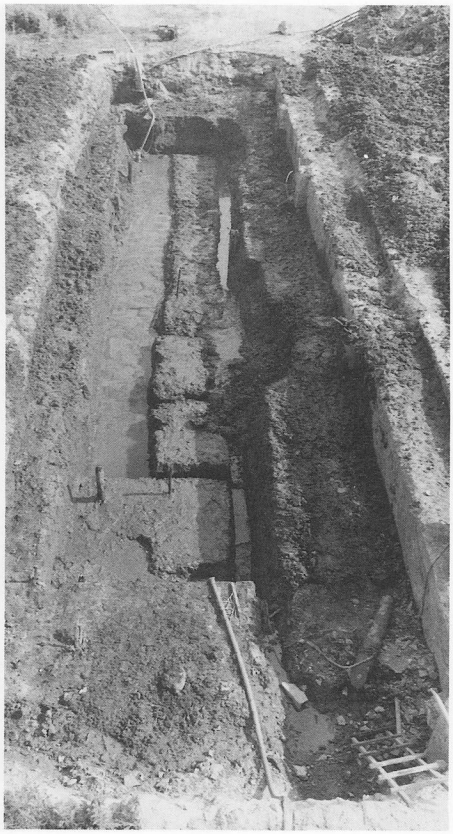
不入岡地区△第１トレンチ（北より）

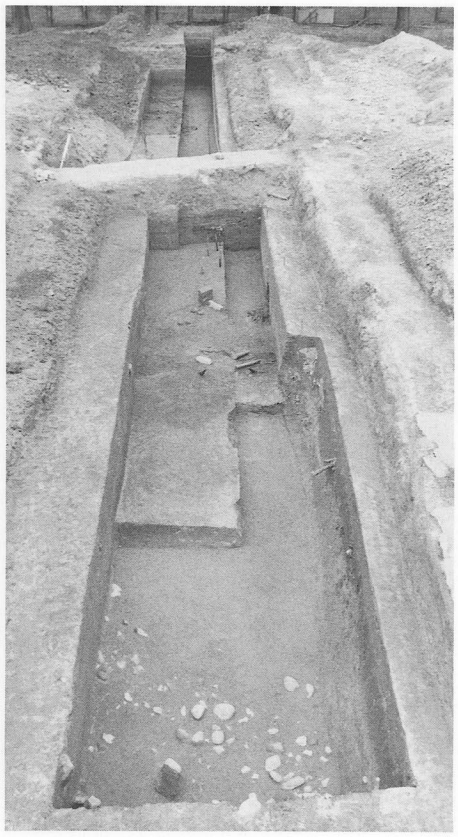
▽第４トレンチ（北より）

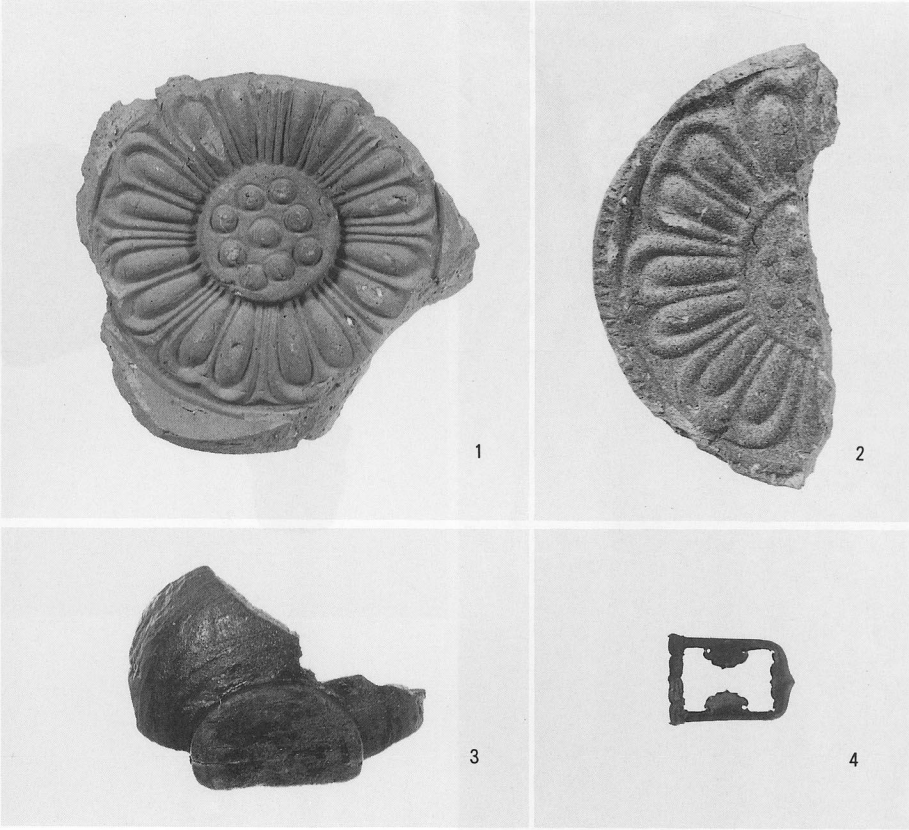
不入岡地区◁第２トレンチ（北より）▷第３トレンチ（北より）

▽出土遺物 １：３





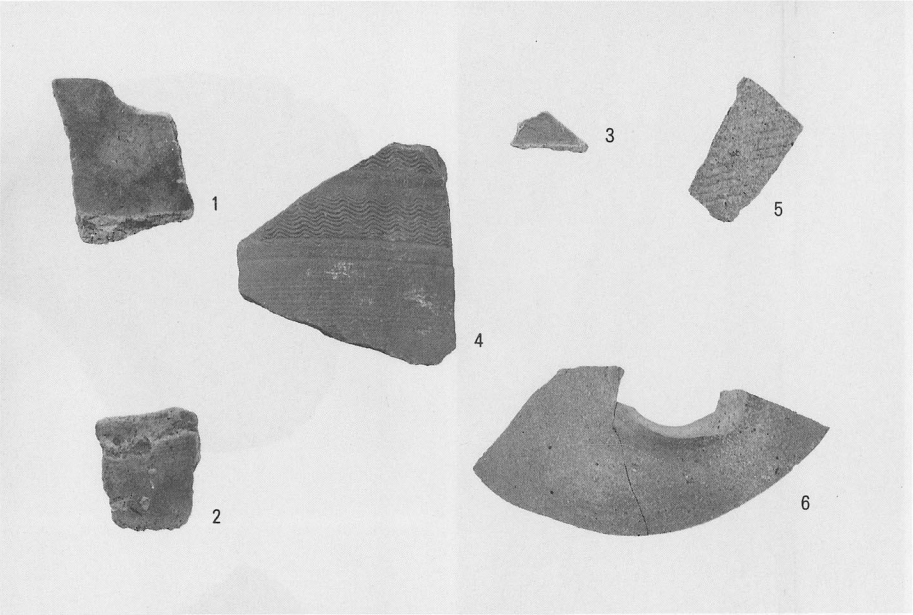




住吉・駄経寺地区△第１トレンチ（北より）
▽第７トレンチ（西より）

住吉・駄経寺地区◁第５トレンチ（北より）▷第６トレンチ（西より）
▽出土遺物 １：３

図版 6

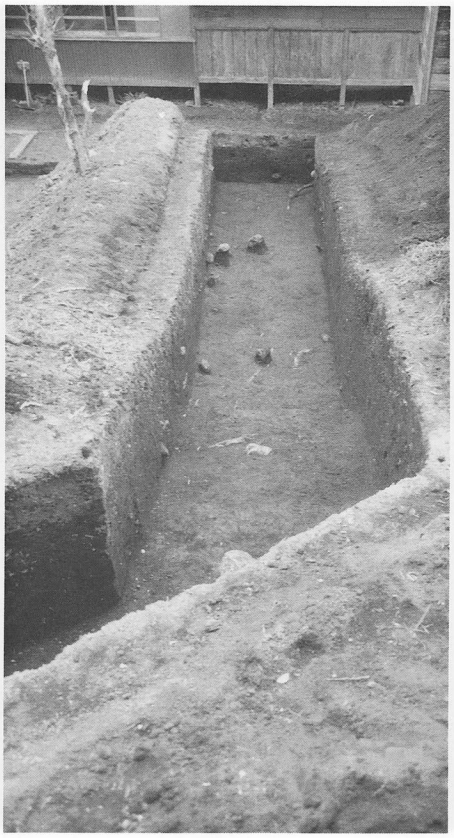


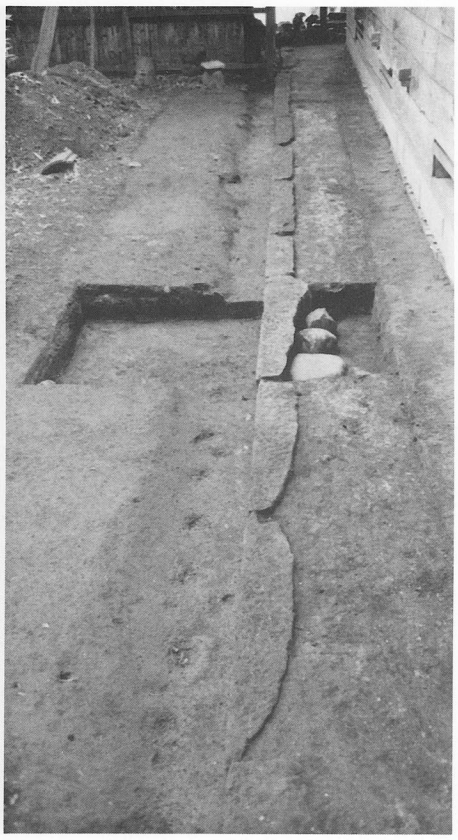
不入岡遺跡△第２トレンチ（東より）

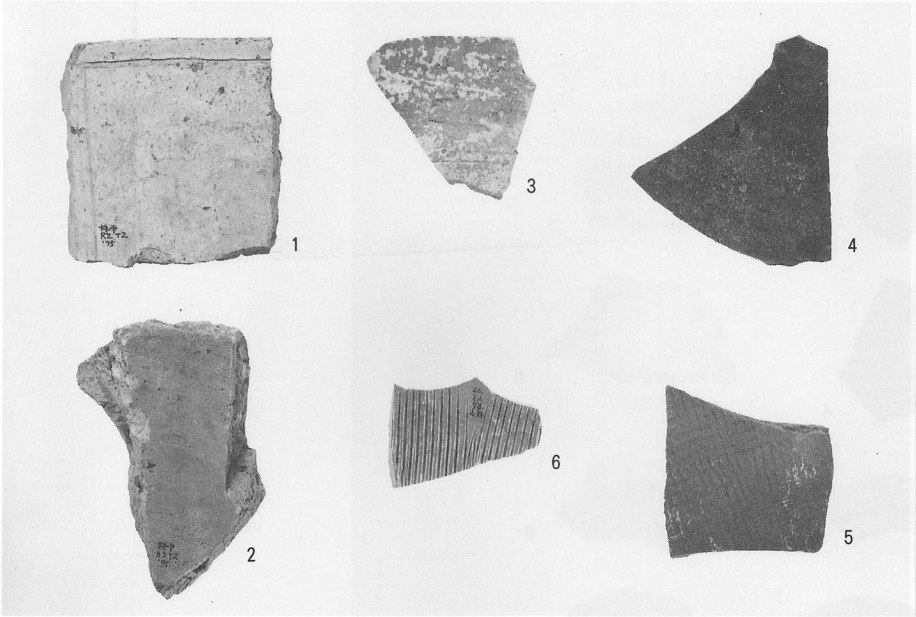
▽第３トレンチ（西より）

不入岡遺跡△第５トレンチ（西より）

▽出土遺物 １：３

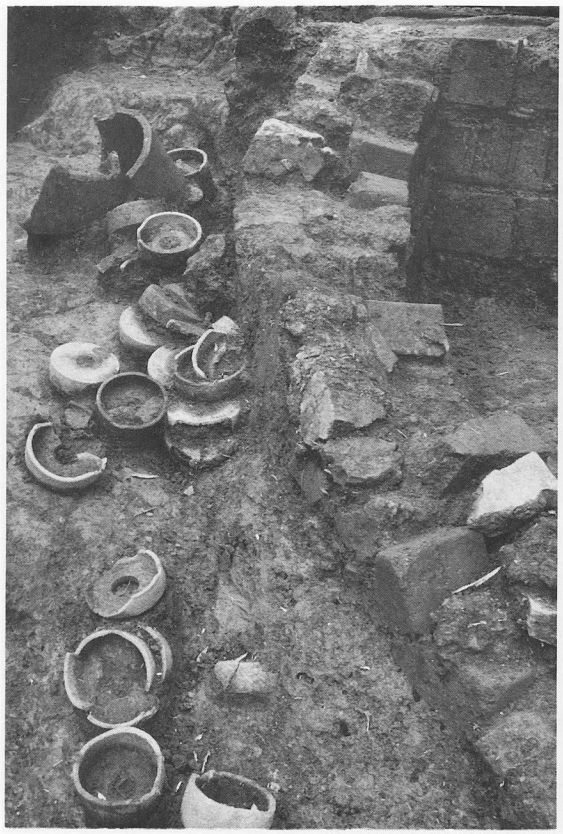


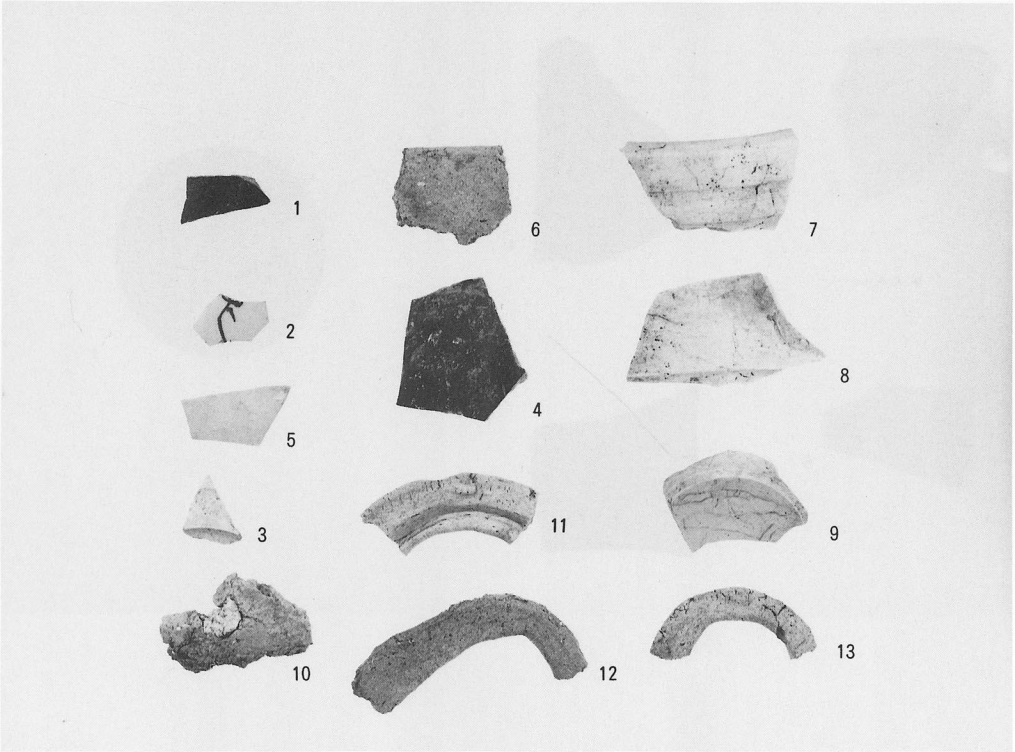




桜寺ケ市地区◁第１トレンチ（北より）△第２トレンチ（北より）▷第３トレンチ（北より）
▽出土遺物 １：３

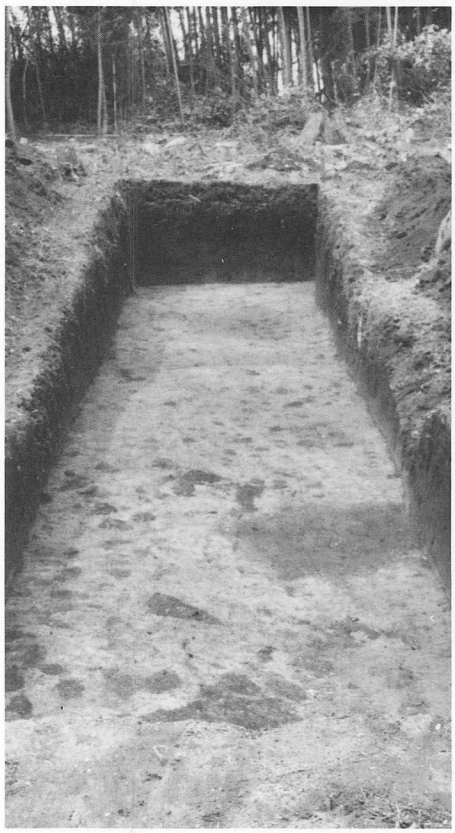
図版 8

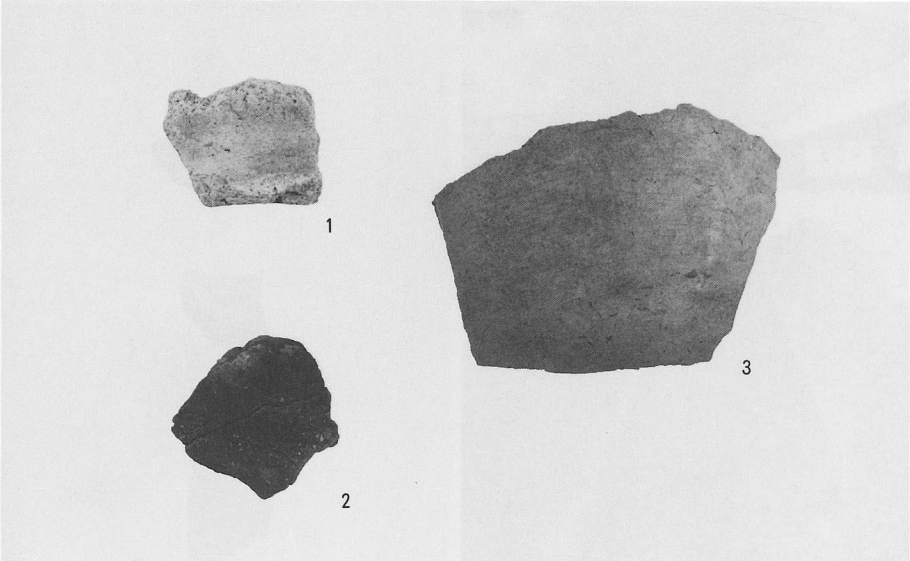




尾原地区◁第１トレンチ　焚き口付近（東より）▷第２トレンチ（東より）

▽出土遺物 １：３

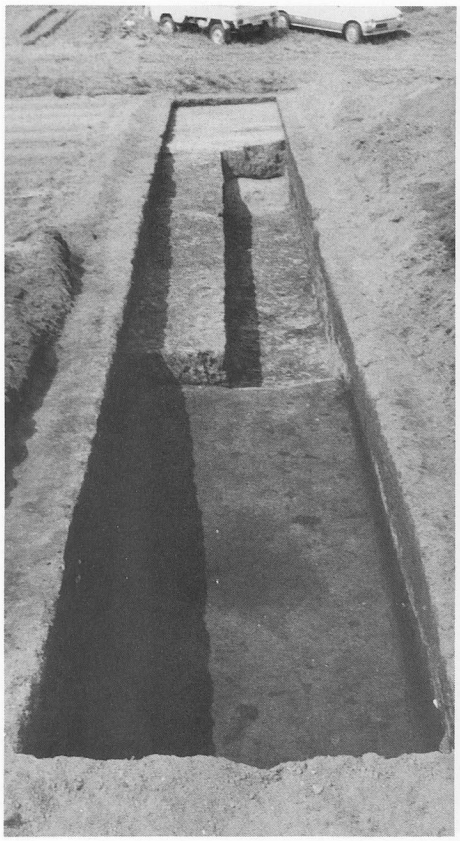


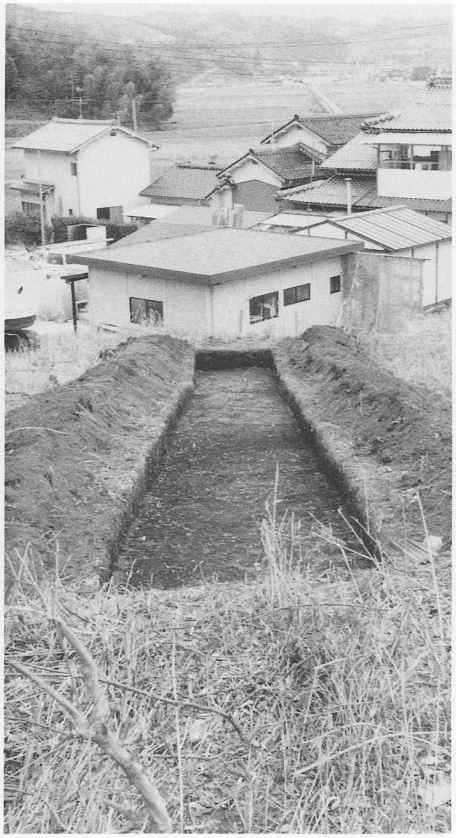


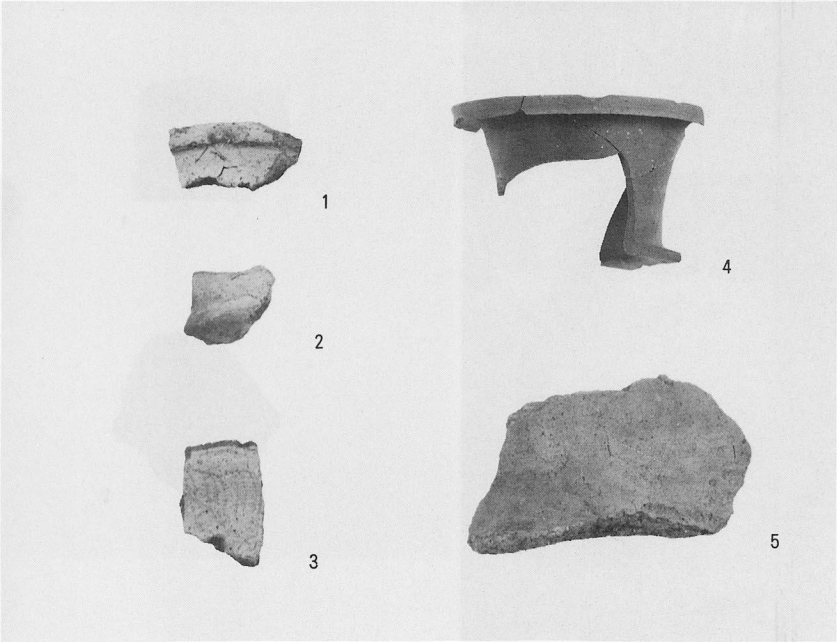
富海地区△第１トレンチ（東より）
▽第５トレンチ（北東より）

富海地区△第１トレンチ拡張区（北より）
▽出土遺物 １：３

図版10







大谷片平山地区△トレンチ（南より）

大谷イザ原地区▽第３トレンチ（北西より）

大谷イザ原地区◁第１トレンチ（西より）▷第２トレンチ（南東より）

▽出土遺物 １：３

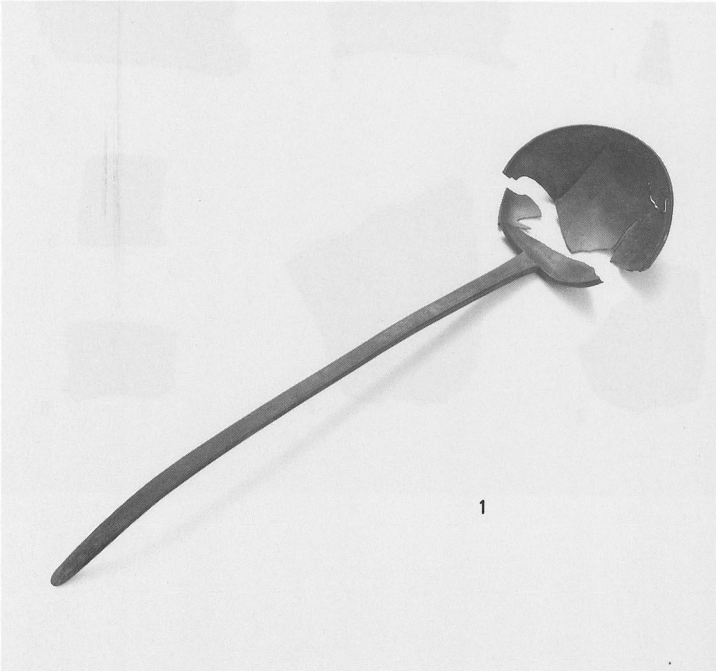
山根地区△第１トレンチ（東より）
▽第３トレンチ（東より）

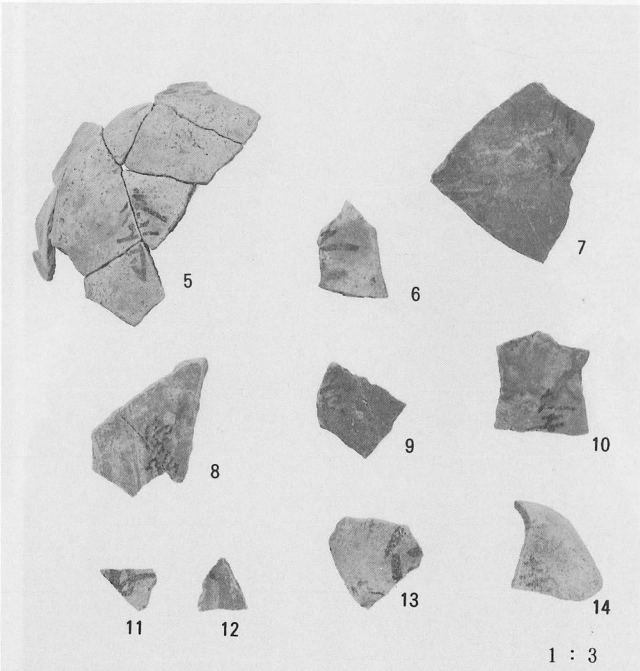
山根地区△第２トレンチ（東より）
▽出土遺物 １：３

図版12

駄経寺地区△第４トレンチ木樋（北西より）

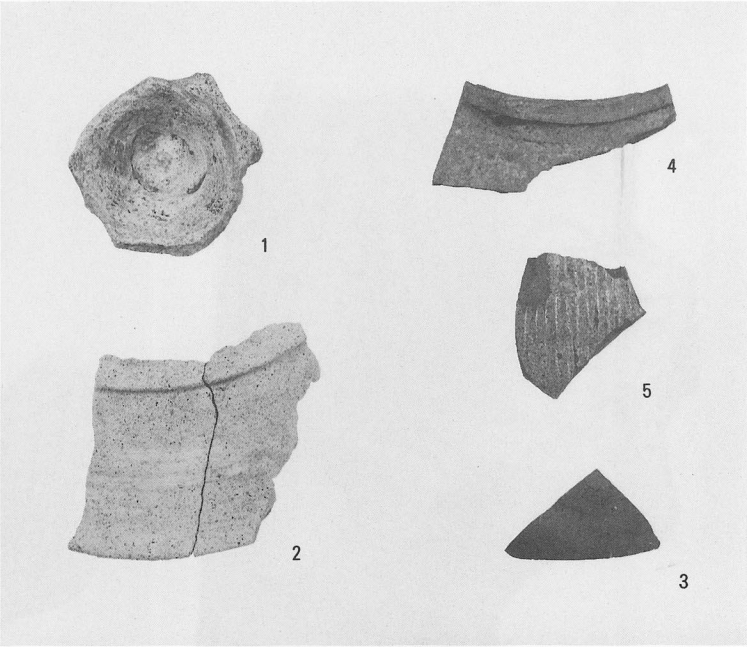
大御堂廃寺（第１次）▽第７・９トレンチ礎石建物（南西より）

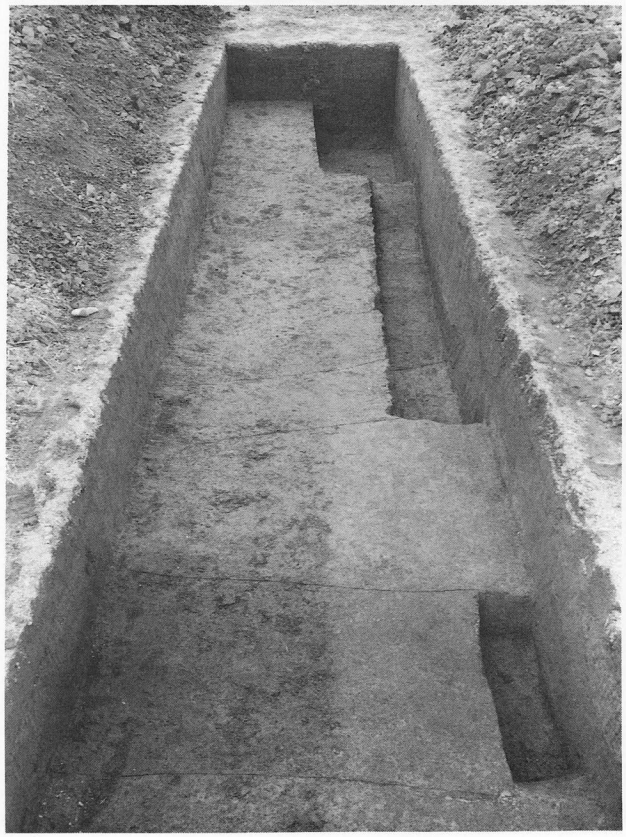


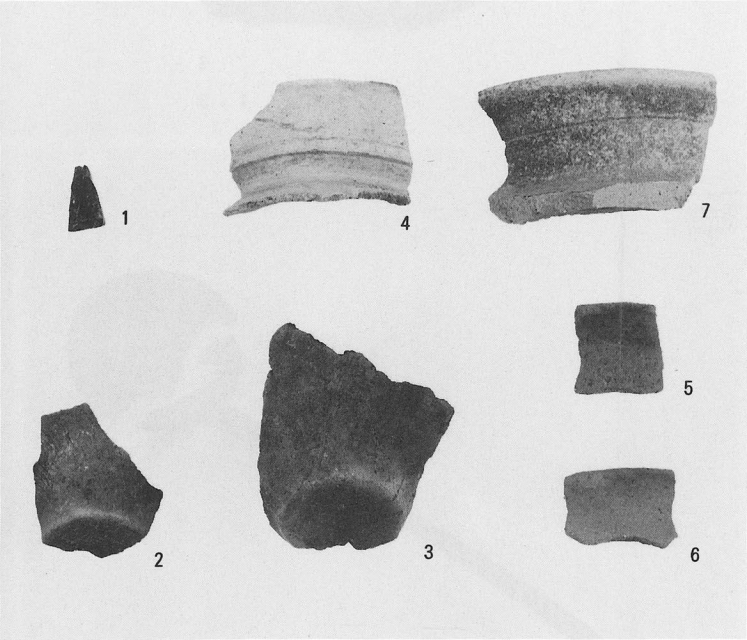


大御堂廃寺（第１次）出土遺物

図版14





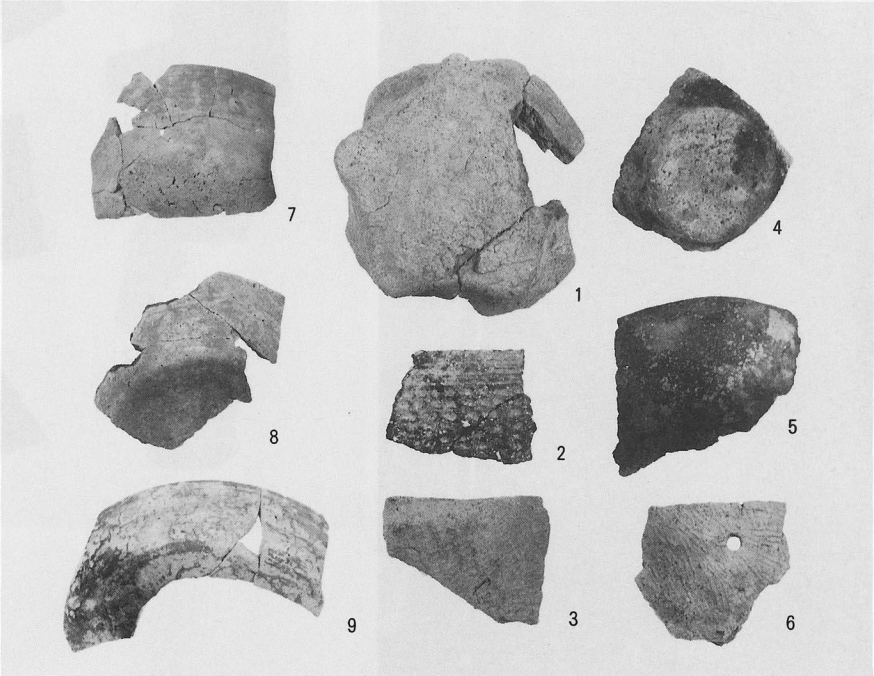


和田地区△第２トレンチ（南より）

中江地区▽第２トレンチ（西より）

和田地区△出土遺物 １：３

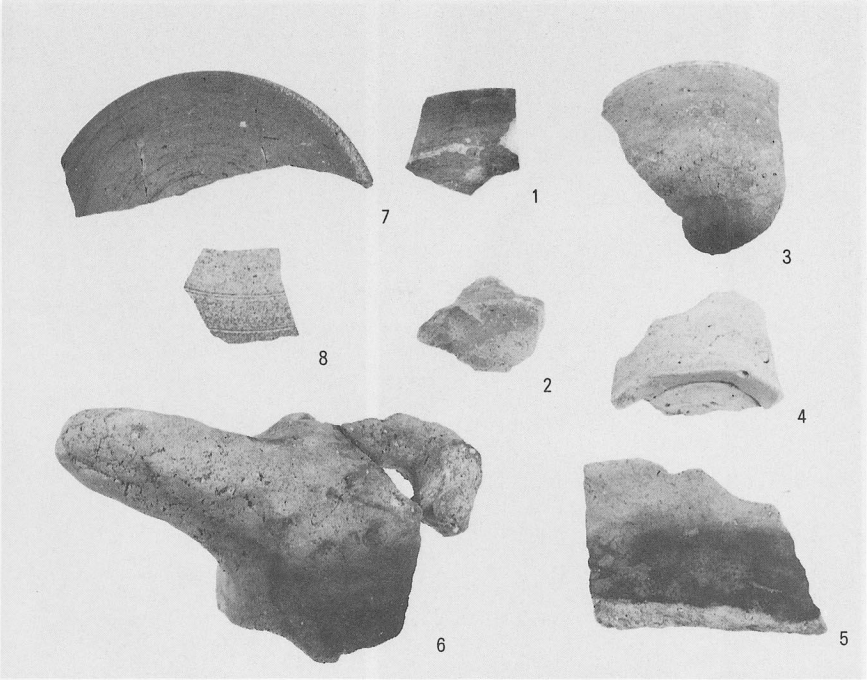
中江地区▽出土遺物 １：３

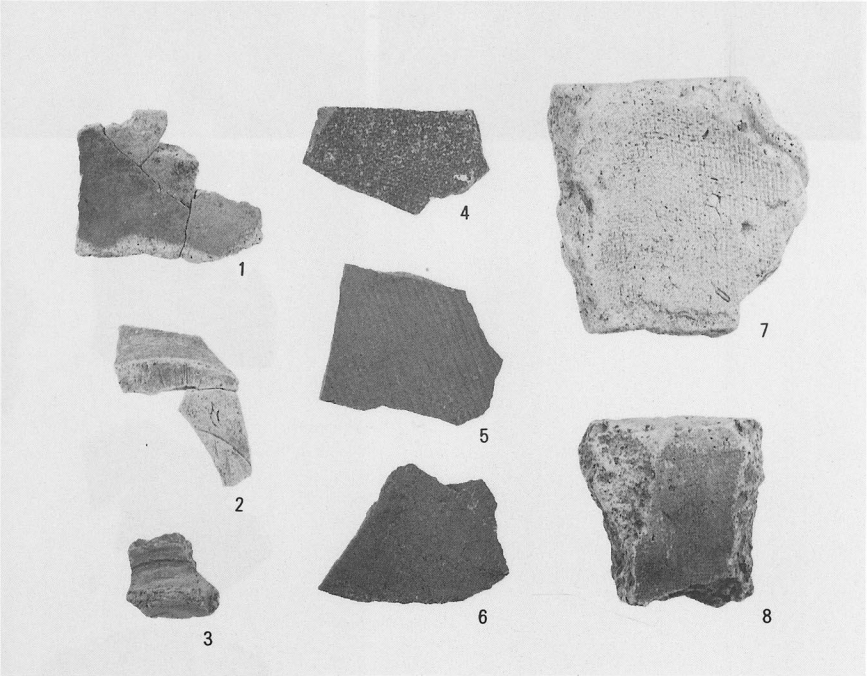


桜後ロ山地区◁第２トレンチ（西より）▷第７トレンチ（北より）

▽出土遺物 １：３

図版16



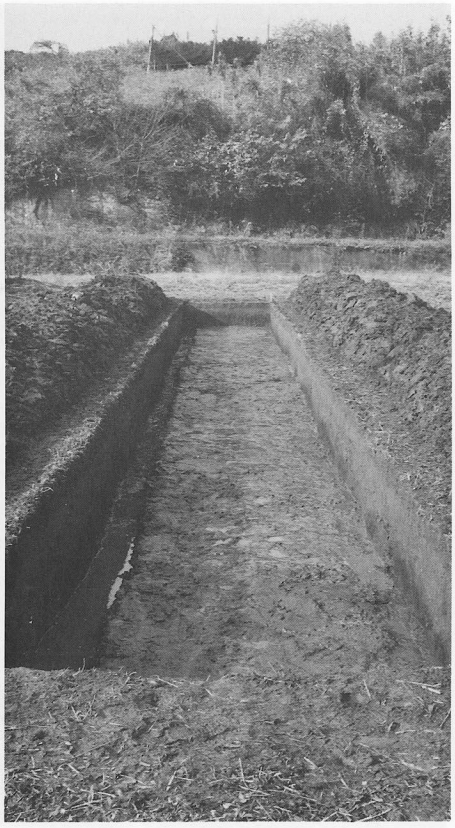


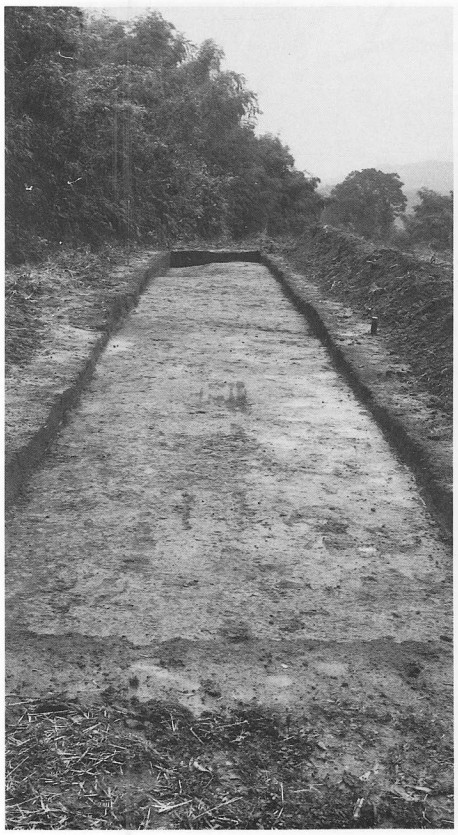
横田地区△第１トレンチ（南より）

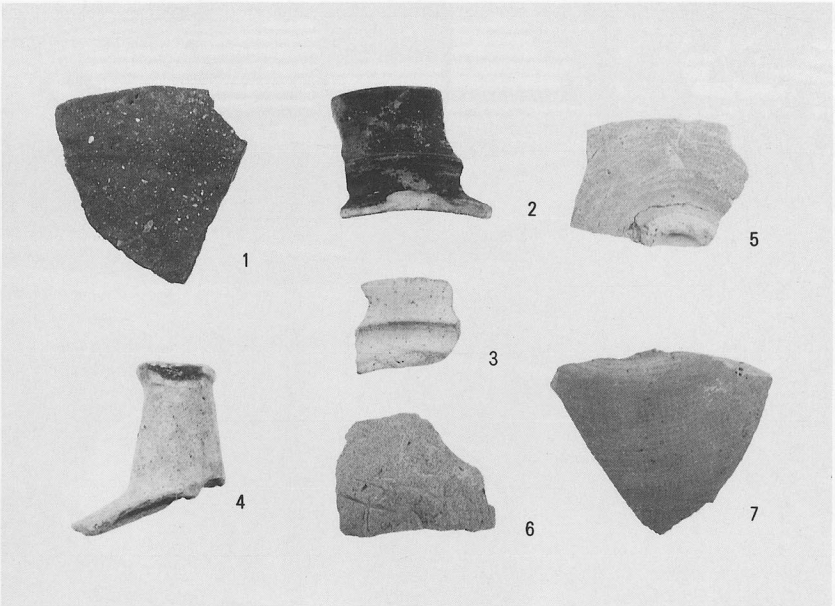
大谷向野地区▽トレンチ（東より）

横田地区△出土遺物 １：３

大谷向野地区▽出土遺物 １：３





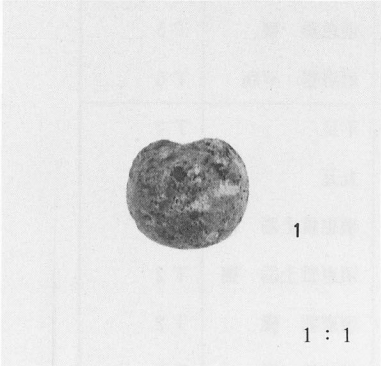


鋤・別所地区△第２トレンチ（西より）
▽第10トレンチ（南西より）

鋤・別所地区◁第４トレンチ（東より）▷第７トレンチ（西より）
▽出土遺物１：３

図版18

大原廃寺（第５次）◁第１トレンチ（西より）▷第３トレンチ　礎石建物出土状況（南より）
▽第４トレンチ（北より）



大原廃寺（第５次）出土遺物

平成７年度調査

地区名	図版No.	遺物名	出土位置
志津	1－1	土師器　甕	T64
	2	土師器　甕	T64
	3	土師器　甕	T64
	4	土師器　甕	T95
	5	土師器　甕	T95
	6	土師器　甕	T95
	7	縄文土器　深鉢	T96
	8	焼石（礫）	T75
大谷中尾	2－1	縄文土器　浅鉢	T 2
	2	弥生土器　壷	T 2
	3	弥生土器　甕	T 2
	4	弥生土器　甕	T 2
	5	弥生土器　底部	T 2
	6	弥生土器　底部	T 2
	7	弥生土器　高坏	T 2
	8	土師質土器　坏	T 2
	9	磁器　瀬戸	T 2
国府A	3－1	土師器　甕	T 3
	2	土師器　甕	T 6
	3	土師器　甕	T 6
	4	土師器　甕	T 6
	5	土師器　埦	T 5
	6	弥生土器　底部	T 3
不入岡	4－1	土師器　甕	T 4
	2	土師質土器　坏	T 3
	3	土師質土器　坏	T 4
	4	須恵器　壷	T 3
	5	須恵器　甕	T 4
	6	須恵器　甕	T 4
	7	須恵質土器　甕	T 2
	8	須恵質土器　甕	T 4
	9	瓦質土器　鍋	T 3

地区名	図版No.	遺物名	出土位置
不入岡	4－10	瓦質土器　鍋	T 2
	11	備前焼　擂鉢	T 2
住吉・駄経寺	5－1	軒丸瓦	T 6 中央部
	2	軒丸瓦	T 6 東側
	3	木製品　坏	T 6 東側
	4	刀装金具	T 6 西側
不入岡遺跡	6－1	土師質土器　甕	T 1
	2	土師質土器　甕	T 1
	3	土師質土器　坏	T 5
	4	須恵器　甕	T 1
	5	須恵器　甕	T 5
	6	須恵器　平瓶	T 5
桜寺ケ市	7－1	平瓦	T 2
	2	丸瓦	T 2
	3	須恵質土器　鍋	T 3
	4	須恵質土器　甕	T 2
	5	須恵器　甕	T 2
	6	備前焼　擂	T 3
	7	金属器　鋺	T 2
尾原	8－1	磁器	
	2	磁器	
	3	磁器	
	4	磁器	
	5	素焼き	
	6	素焼き	
	7	素焼き	
	8	素焼き	
	9	素焼き	
	10	窯道具	
	11	窯道具	
	12	窯道具	
	13	窯道具	

平成８年度調査

地区名	図版No.	遺物名	出土位置
富海	9－1	土師器　甕	T 5
	2	縄文土器　深鉢	T 5
	3	須恵器　横瓶	T 5
大谷イザ原	10－1	弥生土器　甕	T 3
	2	弥生土器　甕	T 3
	3	弥生土器　甕	T 3
	4	須恵器　壷	T 1
	5	土師器　甕	T 3
山根	11－1	土師器　器台	T 1
大御堂廃寺（1次）	13－1	佐波理匙	T 8
	2	鬼瓦	T 8 SD01
	3	軒丸瓦	T 8 SD01
	4	軒平瓦	T 8
	5	土師器　坏	T 8 SD01
	6	土師器　坏	西側排土
	7	土師器　坏	T 8 SD01
	8	土師器　坏	T 8 SD01
	9	土師器　坏	T 8 SD01
	10	土師器　坏	T 8 SD01
	11	土師器　坏	T 8 排土
	12	土師器　坏	T 8 SD01
	13	土師器　坏	T 8 SD01
	14	土師器　坏	T 8 SD01
和田	14－1	土師器　高坏	T 1
	2	土師器　器台	T 1
	3	須恵器　坏蓋	T 3
	4	須恵器　壷	T 4
	5	須恵器　壷	T 4
中江	14－1	玉髄	T 2
	2	弥生土器　底部	T 2
	3	弥生土器　底部	T 2
	4	土師器　甕	T 2
	5	土師器　甕	T 2
	6	土師器　甕	T 2
	7	須恵器　壷	T 2

地区名	図版No.	遺物名	出土位置
桜	15－1	縄文土器　鉢	T 1
	2	縄文土器　鉢	T 1
	3	縄文土器　鉢	T 1
	4	縄文土器　深鉢	T 7
	5	縄文土器　鉢	T 7
	6	縄文土器　鉢	T 7
	7	土師器　坏	T 6
	8	土師器　坏	T 6
	9	土師器　坏	T 9
横田	16－1	土師器　坏	T 1
	2	土師器　坏	T 1
	3	土師器　坏	T 1
	4	土師器　坏	T 1
	5	土師器　甕	T 1
	6	土製支脚	T 1
	7	須恵器　坏蓋	T 1
	8	須恵器　壷	T 1
鋤・別所	17－1	縄文土器	T 1
	2	土師器　甕	T 6
	3	土師器　甕	T 4
	4	土師器　高坏	T 6
	5	須恵器　坏	T 3
	6	須恵器　高坏	T 6
	7	須恵器　甕	T 7
大原廃寺（5次）	19－1	玉	T 2 東側
	2	軒丸瓦	T 1
	3	軒丸瓦	T 4
	4	軒丸瓦	T 4
大谷向野	16－1	土師器　甕	T　溝1
	2	土師器　坏	T
	3	土師器　台付坏	T
	4	須恵器　甕	T　溝1
	5	須恵器　甕	T
	6	須恵器　甕	T
	7	平瓦	T
	8	平瓦	T

報告書抄録

書名	倉吉市内遺跡分布調査報告書
副書名	
巻次	Ⅸ
シリーズ名	倉吉市文化財調査報告書
シリーズ番号	第87集
編著者名	根鈴輝雄・眞田廣幸・森下哲哉・根鈴智津子・加藤誠司・岡本智則・岡平拓也・竹宮亜也子
編集機関	倉吉市教育委員会
所在地	〒682　鳥取県倉吉市葵町722番地　TEL 0858 - 22 - 4419
発行年月日	西暦1997年3月19日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村：遺跡記号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
横谷遺跡群	倉吉市志津字横谷、横谷峯、横谷平	31203：	35° 22′ 50″	133° 45′ 24″	19950411～19950510	2260	倉吉市における各種開発事業に伴う事前の分布調査
中尾遺跡	倉吉市大谷字中尾	31203：	35° 26′ 10″	133° 47′ 53″	19950417～19950509	368	
両長谷遺跡	倉吉市国府字両長谷	31203：	35° 26′ 24″	133° 46′ 41″	19950417～19950509	290	
大御堂廃寺	倉吉市駄経寺町、駄経寺２丁目	31203：	35° 25′ 41″	133° 50′ 30″	19950522～19950704	446.7	
不入岡遺跡	倉吉市不入岡字大林	31203：６ＷＦＦ	35° 26′ 12″	133° 48′ 26″	19950703～19950920	253	
伯尾山窯跡	倉吉市尾原字宮ノ上	31203：	35° 27′ 11″	133° 46′ 34″	19951113～19951130	36	
下西野遺跡	倉吉市富海字下西野、下長尾	31203：	35° 24′ 44″	133° 48′ 56″	19960418～19960426	168	
イザ原遺跡	倉吉市大谷字イザ原	31203：	35° 26′ 41″	133° 48′ 10″	19960424～19960509	119	
大平古墳群	倉吉市山根字大平	31203：	35° 27′ 01″	135° 51′ 57″	19960513～19960517	101	
大御堂廃寺	倉吉市駄経寺町、駄経寺２丁目	31203：	35° 25′ 41″	133° 50′ 29″	19960513～19960607	310.05	
大御堂廃寺（第１次）	倉吉市駄経寺２丁目	31203：６ＵＤＯ・１	35° 25′ 41″	133° 50′ 30″	19960611～19961111	1134.5	
中峰古墳群	倉吉市和田字道和寺、中峰、西門	31203：	35° 26′ 34″	133° 48′ 47″	19960521～19960530	150.8	
南屋敷遺跡	倉吉市中江字南屋敷	31203：	35° 27′ 58″	133° 50′ 14″	19960711～19960712	80	
後ロ山遺跡	倉吉市桜字後ロ山	31203：	35° 25′ 16″	133° 42′ 10″	19960902～19961001	469.8	
福田寺遺跡	倉吉市横田字福田寺	31203：	35° 25′ 17″	133° 46′ 44″	19961125～19961128	78	
大原廃寺（第５次）	倉吉市大原字亀井谷口	31203：６ＵＯＯ・５	35° 25′ 03″	133° 51′ 44″	19961226～19970304	100	
向野遺跡	倉吉市大谷字向野	31203：	35° 25′ 52″	133° 47′ 05″	19970117～19970127	36	

所収遺跡名	種類	主な時代：主な遺構	主な遺物	特記事項
横谷遺跡群	生活址・集落	縄文　：落し穴　3基 　　土壙　1基 古墳　：竪穴式住居　2棟	縄文土器・土師器・土師質土器	縄文時代・古墳時代の複合遺跡。
中尾遺跡	集落・古墳	弥生　：竪穴式住居　2棟 古墳　：古墳　4基	弥生土器・土師器・須恵器・陶器 磁器	弥生時代中期の集落。
両長谷遺跡	集落・古墳	弥生　：竪穴式住居　2棟 古墳　：古墳　1基	弥生土器・須恵器	弥生時代後期から古墳時代後期に至る古墳と集落跡。
大御堂廃寺	寺院	奈良～平安：旧水路	軒丸瓦・軒平瓦・瓦・土師器・須恵器 打製石斧	奈良時代の寺院跡。
不入岡遺跡	官衙	奈良～平安：掘立柱建物 　　区画溝	弥生土器・土師器・須恵器 土師質土器・陶器・五輪塔	奈良時代の大型建物を中心とする官衙跡。
伯尾山窯跡	窯跡	明治　：階段状連房式登窯	陶器・磁器・窯道具	明治初年に操業した登窯。
下西野遺跡	生活址・古墳	縄文　：落し穴　4基 古墳　：古墳　1基	土師器・須恵器・陶器・磁器	縄文時代の落し穴を中心とする遺跡。
イザ原遺跡	古墳・瓦窯跡	古墳　：古墳　3基 明治～昭和：瓦窯	弥生土器・土師器・須恵器・陶器・瓦 窯道具	古墳群と明治中頃から昭和初期まで操業したとされる窯跡。
大平古墳群	古墳	古墳　：古墳　3基	土師器	古墳時代前期の古墳群。
大御堂廃寺	寺院関連施設	奈良～平安：木樋及びその埋設 　　遺構	瓦	寺域西側外より寺域内へ水を導く施設。西端から86m分を確認。
大御堂廃寺（第1次）	寺院	奈良～平安：礎石建物　1棟 　　築地塀　1 　　溝（SD01）　1 　　瓦溜まり　2	佐波理匙・塼仏・塑像・押出仏・瓦 土師器・須恵器	奈良時代の寺院跡。東西約170mの寺域を持つ。
中峰古墳群	古墳	古墳　：古墳　3基	土師器・須恵器	古墳時代前期から後期の古墳群。
南屋敷遺跡	集落	弥生　：竪穴式住居　1棟 古墳　：溝　1条	弥生土器・土師器・須恵器	弥生時代の集落跡。
後口山遺跡	生活址	縄文　：土壙 　　炉跡	縄文土器・土師器・磨石・凹石・敲石 焼石	縄文時代の生活址。
福田寺遺跡	古墳	古墳　：古墳　1基	土師器・須恵器・土製支脚	墳丘の削平された古墳。
大原廃寺（第5次）	寺院	奈良～平安：塔跡 　　礎石建物	瓦・土師器・須恵器・ガラス玉・鉄釘	7世紀後半創建の寺院跡。塔跡は国史跡。
向野遺跡	官衙関連	奈良～平安：溝　1条	土師器・須恵器・平瓦	

倉吉市内遺跡分布調査報告書IX

平成９年３月19日　印刷
平成９年３月19日　発行

編集
発行　倉吉市教育委員会

印刷
製本　㈲　池　田　印　刷